

新潟市新津鉄道資料館

活性化基本計画

（案）

平成24年12月

新潟市

新潟市新津鉄道資料館 活性化基本計画（案）

目 次

第 1 章 新津鉄道資料館の概要	1
1. 沿革	1
2. 現況	1
(1) 立地環境	1
(2) 施設内容	4
(3) 管理運営の概要	4
第 2 章 新津鉄道資料館の見直しの経緯	5
1. 見直しの経緯	5
2. 現状評価（平成 23 年度）	5
(1) 検討の流れ	6
(2) 現状の評価—秋葉区における「文化施設のあり方検討」—	7
第 3 章 活性化事業の基本的な考え方	16
1. 新津鉄道資料館のミッションと運営方針	16
2. ミッションの実現と事業内容	17
3. 活性化事業の基本的な考え方	19
(1) 資料の収集の強化	19
(2) 調査研究	19
(3) 展示	19
(4) 教育普及事業	19
(5) 情報発信事業	20
(6) 利用者サービス	20
(7) 他館との連携	20
(8) 地域ネットワーク	20
第 4 章 展示リニューアル	21
1. 基本的な考え方	21
(1) 基本方針	21
(2) 展示の全体構成	21
(3) 来館者の想定と展示の構造	23

2. 常設展示	25
(1) 基本方針	25
(2) 常設展示の展示構成	25
(3) 展示空間の考え方	38
(4) 常設展示の手法	41
3. 企画展示・特別展示	45
(1) 基本方針	45
(2) 展開にあたって	45
第5章 施設リニューアル	46
1. 基本的な考え方	46
2. リニューアルの内容	46
(1) 設備関連	46
(2) 建築関連	47
第6章 新津駅中サテライト	48
1. 基本的な考え方	48
2. 取り組みの内容	48
第7章 他館とのネットワーク	50
1. 基本的な考え方	50
第8章 さらなる発信力の強化	51
1. 基本的な考え方	51
2. 取り組みの内容	51
第9章 資料館リニューアルで想定されるスケジュール	53
資料	54

第1章 新津鉄道資料館の概要

1. 沿革

新潟市新津鉄道資料館（以下、「資料館」と表記する）は、「鉄道産業資料館として資料と知識を広く後世に伝え、鉄道に親しみを深めるとともに、市民の教養の活用に資する」ことを目的として設置されました。

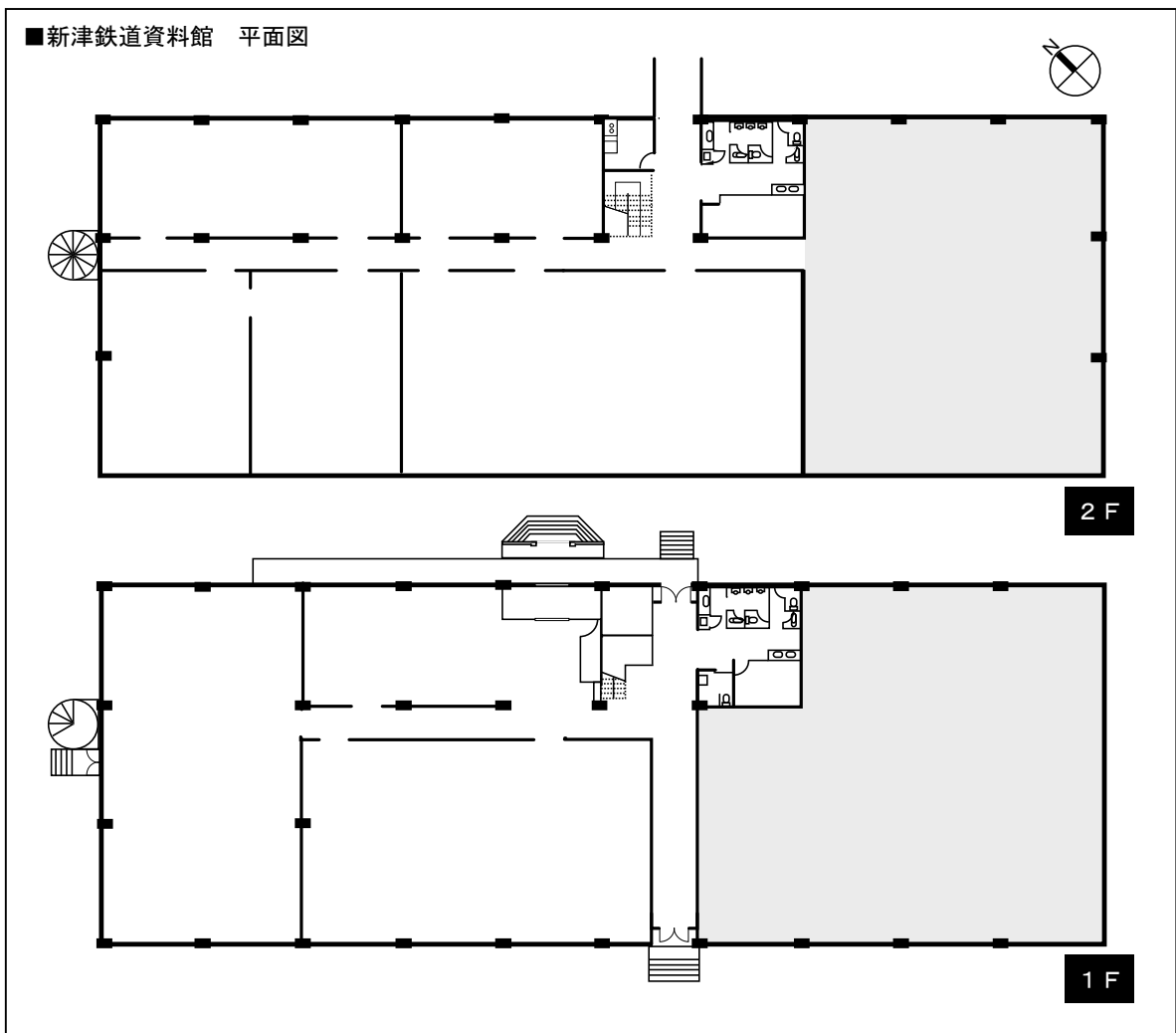
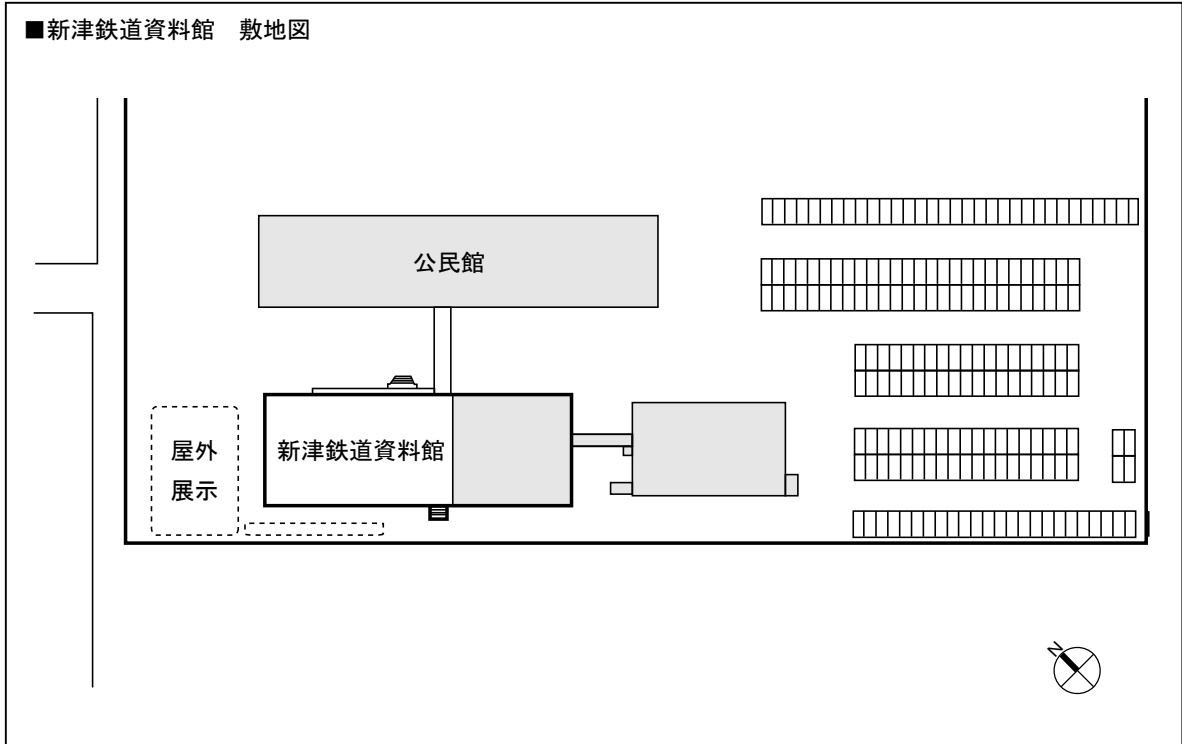
初代の資料館は、現在の東日本旅客鉄道株式会社新津車両製作所の敷地内に旧国鉄の施設を利用し、昭和58年（1983年）に開館しました。展示品は、静態保存車両を含めて2,000点を超える資料を展示・公開しました。

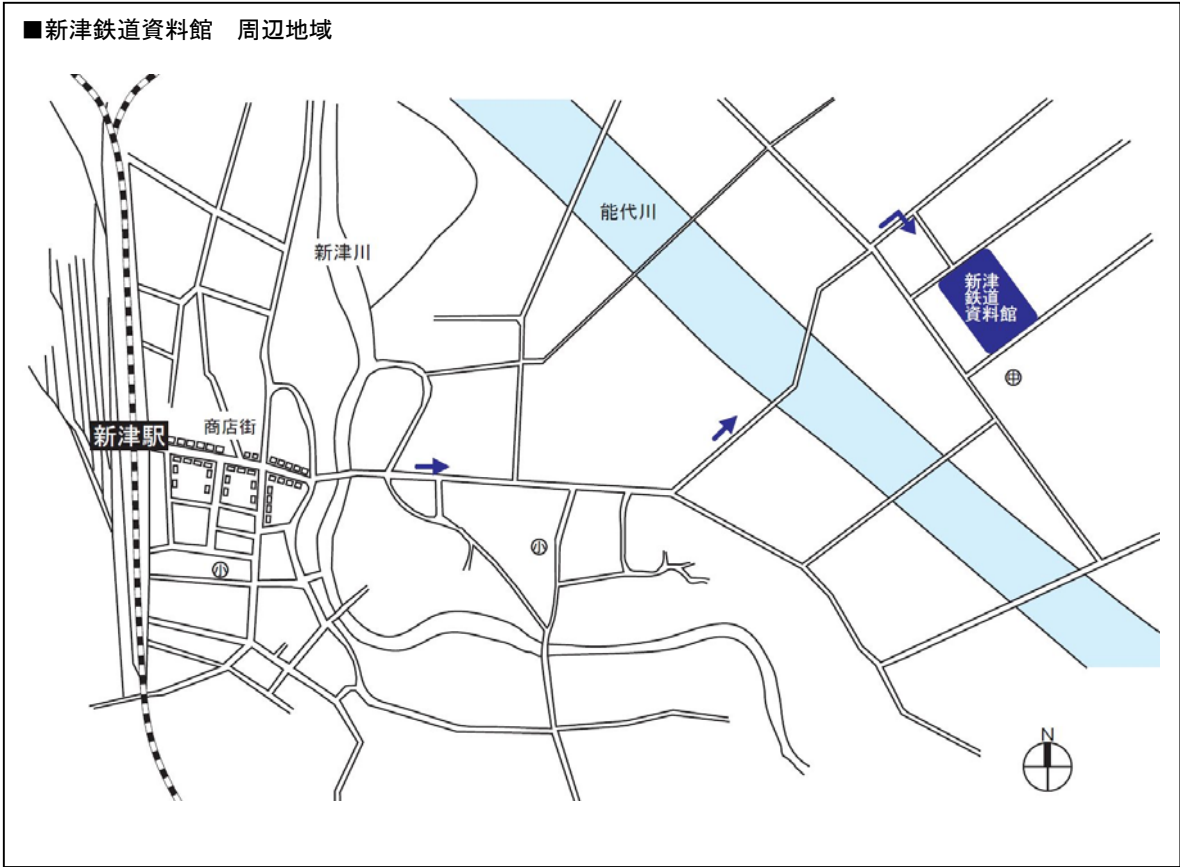
しかし、資料館は施設の老朽化に伴い、平成10年（1998年）、国鉄時代から職員の訓練施設として使用されてきた旧新潟鉄道学園に移転しました。この際、静態保存車両はJRに返却されたものの、移転に合わせて多くの市民から資料の提供を受け、現在は約8,600点にのぼる貴重な資料を収蔵・展示しています。

2. 現況

（1）立地環境

所在地	新潟市秋葉区新津東町 2-5-6 新津地域学園内
構造	鉄筋コンクリート造
延床面積	990 m ²
展示室面積	670 m ²
敷地面積	33,200 m ² （屋外展示場含む）





（２）施設内容

	部門	活動内容	関連諸室
①	展示	○館内において、国鉄時代を中心とする新潟県内の鉄道の歴史や車両の仕組み等を展示している。 ○屋外において、200系新幹線先頭車両部分模型及び鉄道の基盤に関わる実物資料（部分）、木製表示板等を展示している。	○常設展示室 ○映像コーナー
②	収蔵	○鉄道に関する図書・書籍、教材のほか、写真、模型等を収蔵している。	○収蔵庫（館内2階）
③	管理	○臨時職員（鉄道OB等）により、資料の収集・保存、受付等の来館者対応を行っている。	○受付 ○職員控室
④	利用者サービス	○特になし	
⑤	教育普及	○臨時職員により、来館者への資料解説を行っている。	○常設展示室

（３）管理運営の概要

①管理運営体制

新潟市が雇用する臨時職員により、受付、来館者対応を行っています。1名勤務体制を5名で実施しています。

②開館形態

	項目	内容	備考
①	開館時間	9:30～16:30	入館は16:00まで
②	休館日	月曜日 及び12月28日～1月3日	資料整理のため、臨時休館する場合があります。
③	入館料	大人200円、小人100円 (団体20名以上 大人100円、小人50円)	

第2章 新津鉄道資料館の見直しの経緯

1. 見直しの経緯

資料館は、非常に豊富な数量の資料を有しているものの、その多くは旧国鉄時代の資料からなるもので、目新しさに欠け、説明表示（キャプションなど）も不十分であることなど、コレクションを十分に活かした状態とは言い難い状況にあるといえます。さらには、幅広い年代層に楽しんでいただける資料や展示が少なく、多くの市民が身近に感じるような展示場の工夫も足りないということも課題として残されていました。

本市では、資料館の魅力を再発見し、さらには鉄道文化施設としての役割、地域資源としての見直しを図り、より市民サービスの向上をはかる文化施設としていきたいとの視点から、平成 23 年度、専門家・市民・市職員による現状評価を行いました。

そこでまとめられた意見に基づき、平成 24 年度、有識者による「新潟市新津鉄道資料館活性化検討委員会」を設置し、資料館の活性化に向けた基本的な考え方、その具現化に向けた展示、施設のリニューアル、地域活性化へのあり方などについて検討を行いました。

今回策定した本計画は、その検討結果をふまえ、今後の資料館の活性化に向けての基本的なあり方を示すものです。

2. 現状評価（平成 23 年度）

新潟市は、平成 17 年（2005 年）に広域市町村による合併を行った際に、旧市町村で管理・運営していた地域の文化施設も引き継いで管理していますが、その運営形態は一部見直しを行ってきたものの、その多くは従来そのままになってきました。

平成 23 年度、地域の文化施設や活動に関する洗い出しを行い、その施設や地域の活性化の課題解決に向けた方向性を探るために、市民と施設関係者とのワークショップによる「文化施設のあり方検討」を実施し、秋葉区からは4施設（新津鉄道資料館、石油の世界館、新津美術館、小須戸町屋）の検討が行われ、参加者により各施設の現状について洗い出すとともに、各施設の今後のあり方について意見交換を行いました。

その後、秋葉区の重点施設として新津鉄道資料館を設定し、市職員による新津鉄道資料館職員検討会を開催し、当資料館の課題の再整理や今後の運営などについて意見の交換を行いました。

平成 23 年 12 月には、これらを取りまとめ、秋葉区の「文化施設のあり方検

討」結果の報告と併せ、当資料館の活用と取り組む方向性について市長へ報告を行いました。

（１）検討の流れ

開催日		検討内容
平成 23 年 7 月 28 日		金山アドバイザーによる秋葉区内施設の現地確認を実施
■秋葉区における「文化施設のあり方検討」ワークショップ		
第 1 回	8 月 8 日	テーマ「わがマチの文化施設を良くするために」 参加者：20 人（市民 13 人、職員 7 人）
第 2 回	8 月 22 日	テーマ「わがマチの文化施設を紹介します」 参加者：19 人（市民 13 人、職員 6 人）
第 3 回	8 月 29 日	テーマ「文化や文化施設との連携をさぐる」 参加者：19 人（市民 12 人、職員 7 人）
第 4 回	9 月 5 日	テーマ「文化施設を運営する行動計画を作ろう」 参加者：20 人（市民 13 人、職員 7 人）
■新津鉄道資料館職員検討会		
第 1 回	10 月 24 日	検討内容「資料館の運営のあり方について 他」 参加者：15 名
第 2 回	11 月 25 日	検討内容：「資料館をより良いものにしていくために 他」 参加者：13 名
第 3 回	12 月 28 日	検討内容「資料館の改善・活性化について 他」 参加者：15 名
	同日	鉄道資料館を再生するため検討されてきた、秋葉区における文化施設のあり方検討、また職員検討会の検討結果について、市長へ報告を行う。

（２）現状の評価 ―秋葉区における「文化施設のあり方検討」―

専門家による現状評価	
評価者	交通科学博物館（大阪市港区） ①交通科学博物館 高井 洋文 課長 ②交通科学博物館 島 崇 学芸員
意見改善提案等	<p>1. ファミリー層（お子様）に楽しんでいただく</p> <p>○未就学～小学生くらいの年齢層では、部品・用具の見学や、解説パネルを読むことにより、学習したり、感心したりということはあまり見られない。「乗り物」の形が分かる実物車両や模型、動きに変化が出る可動式の展示装置を好んでいる。</p> <p>○当館におけるこの年齢層の動向は、模型の見学や、体験・体感型展示で人気集中している。（実物の運転台、運転シミュレーター、クイズ、ゲーム、模型運転 など）</p> <p>■改善策</p> <p>1) 解説パネルの改善</p> <p>○文字量の工夫。</p> <p>○お子様に読みやすいパネル構成を心がける（文章表現の工夫、ルビ、イラストや写真の多様、文字の大きさや読みやすいフォント、パネルを設置する高さを考慮）。</p> <p>2) 模型等の増設</p> <p>○車両模型展示コーナーを設ける。もしくは、展示に模型を多用する。</p> <p>○模型に触れられる。動かすことができる。</p> <p>○鉄道パノラマは、情報や情景にこだわるより、車両にバラエティーをもたせる。特に身近な車両や、（上越）新幹線などは、鉄道を知らない親御さんでも分かりやすいので車両について子供との会話ができる。楽しめる。</p> <p>3) 展示場</p> <p>○テーマをしぼる（展示品数の整理）。</p> <p>○動線を設け、鉄道になじみのない方に配慮する。</p> <p>○各展示品において見学者に何を伝えたいかを明確にして展示を構成。</p>

2. オリジナル性のある資料館づくり

1) 地域性を持たせた展示

○新潟や新津など、ここでしか見られない地域性の高い展示を資料館のメイン展示とすることで、鉄道好きな方はもちろん、そうでない方でも、新潟観光のひとつのスポットとして興味を持ちやすい展示を目指す。

○地域の学校教育との連携を図り、鉄道技術とともに栄えた「鉄道のまち・新津」の郷土史を学ぶことができる教育の場として活用（社会見学、校外学習など）していただく。

*キーワード：「鉄道のまち・新津」「鉄道学園」「雪とたたかう」「赤谷線」「蒲原鉄道・新潟交通」など

2) 各種イベントの開催

○サークル、クラブ、同好会、鉄道OB、新潟支社、工場などにご協力いただき、各種イベントを定期的に行う。イベントを通して、多くの方に資料館に来ていただくとともに、世間に対して話題を提供することにより広く資料館を知っていただく。

- ・鉄道模型の運転会
- ・ミニSL運転会
- ・同好会など研究発表の場
- ・鉄道施設ウラ側見学会 工場見学会
- ・会合の場として使っていただく など

3. 現在の展示場について（懸念事項）

1) 資料の劣化

展示中の資料について、日光や室内照明によるものと考えられる、色の退色が見られた。特に、紙資料類、記念切符類が顕著である（写真も懸念される）。退色は日々進行するため出来るだけ早期の対処が必要。

■改善策

- 退色の主な原因は太陽光や照明からの紫外線と考えられている。
- 窓については、カーテンを閉める。もしくは紫外線をカットできるフィルム等を貼る。
- 照明については、LED照明（紫外線が出ない）に変更する。もしくは、展示用（紫外線が出ない）の蛍光灯を用いる。
- 光が資料に当たる時間を少なくするため、展示する資料の数を減らし、定期的に資料を入れ替える。
- レプリカ（複製）を用いる。

<p>意見 改善 提案 等</p>	<p>2) 盗難の問題</p> <p>○お客様のモラルの問題が一番に挙げられるので難しい事柄。しかしながら、博物館・資料館の展示資料は一点一点が各自「ストーリー」を持っており代替品が存在しないため、セキュリティ面で特段の配慮が必要。</p> <p>■改善策</p> <p>○注意書きを展示場に貼る。</p> <p>○鍵付きの展示ケースの導入など、展示ケースの整備を行い、大型や重量展示物以外はケース内展示とする。また大型展示等についても柵やアクリルパネル等で「バリア」を作ることも一考である。</p> <p>○巡回を強化する（資料に異常がないか点検する）。</p> <p>○ダミーでも構わないので、防犯カメラ、もしくは警報装置等を増設する（防犯カメラは録画機能をつける）。</p> <p>○展示点数を減らす（点検を容易にするため など）。</p> <p>○定期的に展示替えを行う。</p> <p>4. 「寄託資料」について</p> <p>○「寄託資料」での資料館運営は、今後も難しくなることが予想される。盗難や破損・汚損となった場合の所有者への対応が挙げられる。また、他館等への貸出し、資料の補修や複製の製作などが必要となった場合は、所有者へ許可を頂かなければならないので、緊急時などのスムーズな対応が難しい。さらに、所有者の意向により資料を返還する義務が生じる状態は、資料を適切な状態で保存し、散逸を防ぎ、後世に伝えるという役割を有する資料館や博物館の資料管理上適切でないと考えられる。</p> <p>○円滑な資料館運営のためにも、「寄託」による運営はご検討いただいたほうが良いと思われる。</p>
-------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

専門家による現状評価	
評価者	元交通博物館学芸員 佐藤 美知男氏
意見改善提案等	<p>1. 資料館まで</p> <p>① 駅から遠い。道中も単調なので、2キロ余りを歩くのはきつい。歩くのが楽しい道（道中）ならば可能か。</p> <p>② 駅からの行き方がわかりにくい。案内所も閉まっていて無人。バス乗り場が離れていて、時刻や運転間隔が不明。</p> <p>2. 資料館の印象</p> <p>① 鉄道に縁がある建物だが、外観の魅力と期待感に乏しい。</p> <p>② 収蔵資料の種類と数量は豊富。専門的なものから一般的（当たり前）なものまでの部品や用具があって、魅力と価値がある。</p> <p>③ 展示と保存の面では、資料を生かしていない。もったいない。見せ方の工夫が必要。</p> <p>④ 資料や解説板・パネルなど全般に劣化が目立つ（特に退色）。資料は保存上、心配。</p> <p>⑤ 展示構成は一応大分類され、整頓されているが、系統・順序立っていないため、どのように見て行ったらいいか迷う。</p> <p>⑥ 資料に解説がないものがある。</p> <p>⑦ 図書室には基礎的な蔵書がある。「新潟支社報」は貴重。</p> <p>⑧ 資料登録は予想以上に整理されているが、細目情報が不足（使用年代、使用箇所、用途、使用方法など）。</p> <p>⑨ 屋外展示品は雪のため劣化が目立つ（金属製も木製も）。将来も心配。</p> <p>⑩ 特別展会場スペースなし。</p> <p>⑪ 経費不足と、専従者・専門職員不足の印象。</p> <p>⑫ 館付近に飲食の場所なし（休憩をとりたい場合）。</p> <p>⑬ 資料館の他に、近辺や周囲に魅力・関心があるものがないと、一般客（外部の人）は来にくいし、リピーターにはならない（特に女性）。</p> <p>3. 現状での改良</p> <p>① 全体的な化粧直し。</p> <p>② 博物館用照明（無紫外線）の導入。</p> <p>③ 展示方法の整備。例えばディーゼルエンジンは枕木で支えるのではなく、実物に近いような台枠に吊るす。</p> <p>④ 実物車両がほしい。</p> <p>⑤ 日本鉄道保存協会年次総会の誘致。</p> <p>⑥ シャトルバスの運行があるとよい。</p> <p>⑦ 例えばトイレを汽車便所の変遷にして、レプリカで過去からの便器を並べ、実際に使用してもらおう（話題性として）。</p>

意見改善提案等	<p>4. 今後</p> <p>①駅前の新館は望ましい。旧0番線までを屋根で組み込んで、実物車両を保存する。</p> <p>②新潟固有のテーマ「雪」（防雪、除雪など）について充実する。</p> <p>③名称と内容を“新潟鉄道資料館”に拡大してはどうか。市と県の合同施設にするあり方は可能か。</p> <p>④これからは本物の時代。豊富な資料を生かして、“生きた鉄道知識の博物館”“実物で見る鉄道学習図鑑”を目指してはどうか。鉄道博物館とは違って、鉄道基礎知識の展示を充実させる（レール、線路標識、道具、プレート類、保線などの分野）。</p> <p>⑤駅前にある神尾弁当部を活かせないか（ミニ駅弁博物館など）。</p> <p>⑥一時的なイベントではない、街自体の魅力の増加も必要。</p> <p>⑦昭和40年代の駅と町を再現。“昭和40年村”はどうか。</p> <p>5. その他</p> <p>①新潟（新津）は鉄道の車種が多いから、鉄道好きには魅力ある土地。</p> <p>②博物館施設で黒字化は困難。グッズ類の売り上げは高が知れている。</p> <p>③経費を出し、経費を出し続ける意志が市にあるかどうか。</p> <p>④他の自治体の取り組みとして、長浜（黒壁ガラス館）、伊勢（おかげ横丁）、青梅（レトロタウン）、丸瀬布（森林鉄道機関車の運転）などの状況。</p> <p>⑤JRは乗客増につながればのってくる可能性あり。</p> <p>⑥鉄道博物館を参考にはするが、新津の独自性を。</p>
---------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

市民による現状評価 ：秋葉区における文化施設あり方検討会ワークショップ参加者	
意見 改善 提案 等	<p>1. 良い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○展示が見やすい。 ○「行き先表示板」など実際に使用された実物が数多くあり展示数は充実している。 ○通常の地域の文化施設とは異なり、産業から生じた独特の文化を対象にしている。 ○新潟交通や蒲原鉄道など廃止されているが歴史的で貴重な資料がたくさんある。 ○展示が近く見やすい。 ○記念切符や銘板など貴重な品物が多い。 ○マニア受けするし、品物にまつわる話を聞くと案外おもしろい。 ○鉄道博物館にない貴重な資料がある。 ○秋葉区には電車を製作する工場がある。 ○昔から二大鉄道の町は新津と米原が有名。 ○新津周辺では活きたSLに接することができる。 ○鉄道に関する事項をすぐに知ることができる。 ○説明が詳しい。 ○入館料が安い。 <p>2. 悪い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○動きのある展示品が少ない。 ○子供達が興味を持ってそうな展示品が少ない。 ○操作、体験できる展示や資料が少ない。 ○多目的に利用できる場所が無い。 ○エアコンが少ない、夏暑く、冬寒い。 ○駅から遠いうえわかりづらい場所にある。 ○交通アクセスが不便、もっと便利にしたほうが良い。 ○「鉄道」だけに駅に近いほうが良いのではないか。 <p>3. 資料館としてのミッション（使命）の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「市民に喜ばれる資料館に」 <p>4. 新津鉄道資料館としての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コレクションは充実しているが、全点の把握（データベース化）が不十分である。 ○施設管理をする臨時職員と鉄道友の会との連携がない。 ○新津のまちなか（商工会議所、商店街）、J R 東日本との連携が弱い。 ○個別地域との結びつきが少ない。 ○古い年代の資料展示で高齢者層には好評だが、新しい切り口の展示がなく、若年層にはアピールできない。 ○学校の社会教育には有効であっても、外から訪れてもらう施設としての継続性に結びついていない。

意見改善提案等	<p>5. 対応策</p> <p>①短期の対応策</p> <ul style="list-style-type: none">・ 自主事業費を予算化して、新たな事業展開で、アピールを図っていく。・ 台帳、資料整理を行うとともに、作業に伴う人員の確保も視野に入れる。・ 協働で事業を実施できる組織作りが必要である。・ J Rなどの協力を得て、新たな収蔵品の確保と展示内容の見直し、展示のコンセプトづくりを進めていく必要がある。 <p>②中長期の対応策</p> <ul style="list-style-type: none">・ 入館料の無料化も検討する。・ 全国の鉄道文化施設との連携や共同事業などを行うことで、魅力の向上に努める。・ まちなかと資料館の活性化のため、新津駅前に「サテライト施設」を設置する。
---------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

市職員による現状評価：新津鉄道資料館職員検討会

意見改善提案等

1. 課題

- いろいろ案はあるが、それをこなせる「知識を持つ人材がいない」。
- 地元から歓迎されている施設ではないようだ【地元との共生】。
- 情報発信力の不足。
- 展示物が豊富な一方、現施設が手狭。
- 収蔵品台帳はある一方、「寄付品」と「寄託品」が混在。
- 現在の展示内容は「動かない」「現物の車両がない」「古い」で魅力が弱い。
- 館外における交流（市民、団体問わず）が不足している。
- 資料館を支える組織がない。
- 身近な展示内容がない。
- 公共交通アクセスが非常に悪い。
- 鉄道資料に関する「知識・人材に乏しい」・・・人材がいない現状。
- 様々な面で「現場の改善」が必要。
- マニア向け or 一般、子ども向け、どちらの展示路線でいくか。
- 展示物だけでは、鉄道博物館や交通科学館にかなわない。それをどう使っていたかを語ることによって、「鉄道のまち」のオリジナリティを出すか。
- 現物の車両が1両もないのはさみしい。かつて走っていた車両が1つでもあると印象が違ってくる。
- 展示が古い（SL時代からの展示があるが、新しいものは昭和50年代で止まっている）。

2. 方向

【短期・明日からできること】

- さらなる情報発信（情報発信ブースの設置、他の施設と連携）。
- 他のイベントとの連携強化。
- 広く資料の収集を。
- 収蔵品を出来る限り「寄付」にすべき。「寄託」では館外での展示が制限されるなど、今後の十分な展開が図れない。
- 展示品の詳細な説明文を。
- 小学校の総合学習への取り入れを。また、保育園や幼稚園の招待。

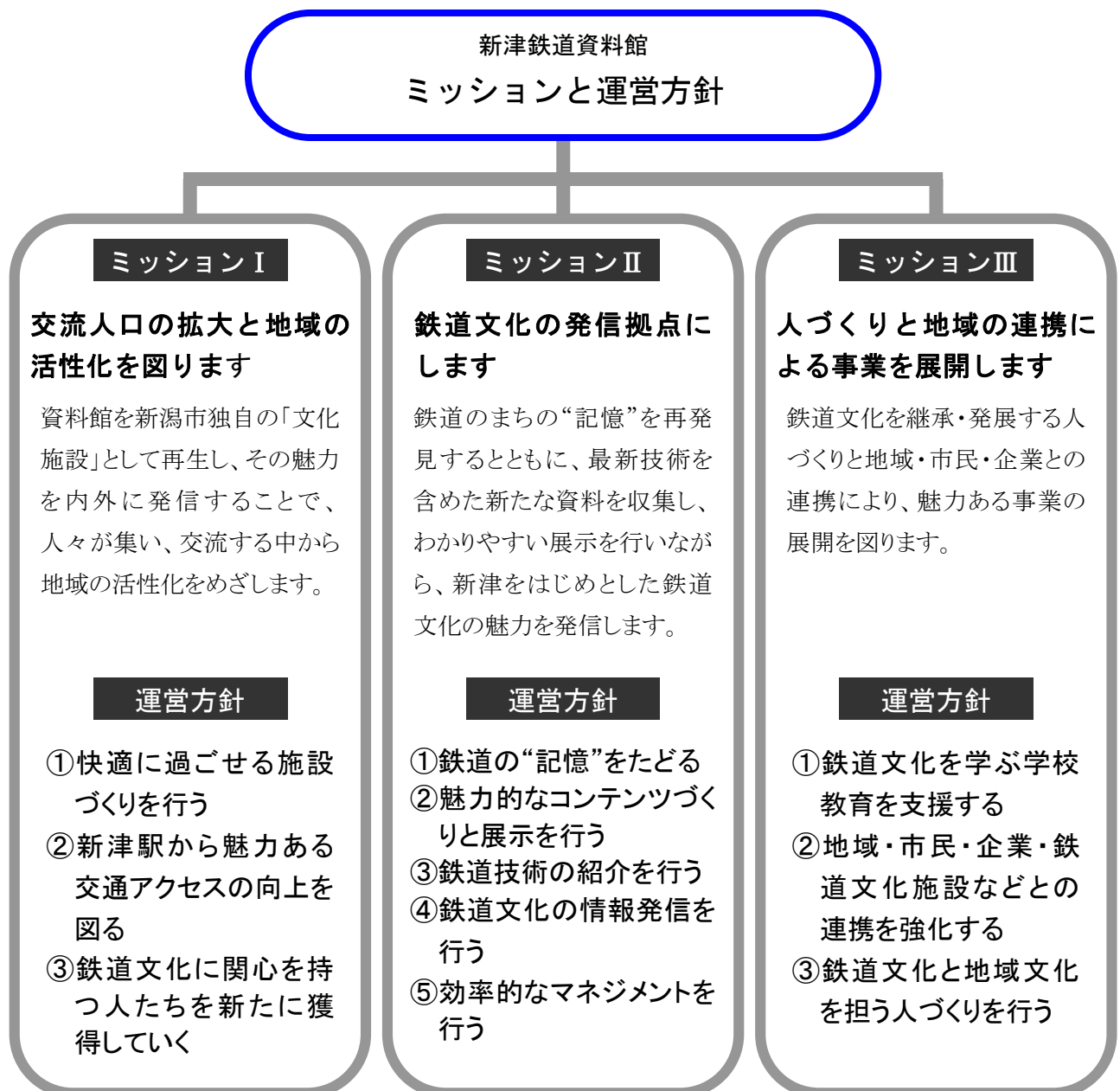
<p>意見 改善 提案 等</p>	<p>【中期・1年以内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新津駅を出てから資料館へ行きやすくする環境づくり（特定の日に無料バス？） ○鉄道を通じた交流（鉄道にまつわる他市町村との交流、情報相互発信）。 ○鉄道の歴史に関心を持ってもらい、鉄道のまちをもっと知ってもらう取り組みを。 ○「鉄道資料館ガイド」の養成（資料館職員のみならずにも頼ることなく）。 ○ガイド付きの館内案内（随時では大変なので、月に1～2回などと設定する）。 ○「石油の世界館友の会」のような「友の会」の結成。 ○身近な鉄道雑学的な紹介も（時刻表の変遷、一番距離の長い電車、高度にある駅）。 ○市民などからの寄付を受け付ける体制を（品の見極め、受入可否判断は大変だが、オンリーワンの施設を目指すため幅広い資料収集を）。 ○職員の配置（収蔵品点検、展示入替、資料収集には不可欠）。 ○JRとの協力関係の構築＝資料館活性化には必要不可欠。 ○他の鉄道に関する博物館・資料館とのネットワーク・連携づくり（借用などによる相互展示など）。 ○展示を変更する（ストーリー性を持たせ、「鉄道のまち」が見えるように。鉄道の歴史、文化としての鉄道、生活に関わってきた鉄道、などゾーン設定など）。 ○屋外展示の改善（ただ置きっぱなしの感がある）。 ○素晴らしい収蔵品があるものの、色あせないような展示方法が必要（蛍光灯→LEDなどへ）。 ○年に数回（季節毎）にイベント開催（リピーター増につながる取り組みを）。 ○新津駅前からの誘客強化を（新津駅前にサテライトはどうか）。 ○新津駅のほか新潟駅などにも鉄道ブースを設置して、「資料館に行ってみたい！」という興味をひくPRを（＝JRとの協力関係の構築）。 <p>【長期・3年以内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○展示のリニューアル（マニア向け or 一般、子ども向けの企画・展示） <ul style="list-style-type: none"> *例：体験型運転シミュレーター、ミニSL運転など。鉄道OBの解説付きで。 ○交通アクセスの改善（区バスの現路線変更など、新津駅前からの誘客） <ul style="list-style-type: none"> ・JR東日本新津車両製作所などの協力を仰ぎ、電車の技術革新を取り入れた展示を。
-------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第3章 活性化事業の基本的な考え方

1. 新津鉄道資料館のミッションと運営方針

資料館のおかれている現状評価をふまえ、活性化検討委員会にてまとめられた提言書を受け、資料館が果たすべきミッション（使命）及び運営方針を定めます。

資料館が行う事業内容は、このミッションの達成を目的として行うものであり、かつて「西の米原、東の新津」と謳われた、本市に息づく鉄道文化を市民の誇りとするとともに、楽しさと懐かしさを織り交ぜた新たな魅力を創造し、全国に向けて発信力のある資料館づくりを実現していきます。



2. ミッションの実現と事業内容

前項に掲げる資料館のミッションの実現にあたっては、運営方針に基づき、下記に示す事業内容の展開を図ります。

それぞれの内容は、次章以降に示す資料館の博物館活動及びリニューアル整備において取り組んでいくこととします。

	ミッション	運営方針	事業内容
I	交流人口の拡大と地域の活性化	①快適に過ごせる施設づくりを行う	利用者サービスコーナーを設置する
			キッズコーナーを設置する
			空調設備の改善を行う
			バリアフリー化を行う
			資料の劣化防止対策を行う
			施設の外観を魅力的に装飾する
		②新津駅から魅力ある交通アクセスの向上を図る	新津駅からの交通手段を確保する
			新津駅付近の各種表示板等に資料館PRとアクセス表示を行う
			主要幹線道路に誘導看板を設置する
③鉄道文化に関心を持つ人たちを新たに獲得していく	文化施設を巡回する巡回バスを運行する		
魅力ある特別展等を実施する			
II	鉄道文化の発信拠点	①鉄道の“記憶”をたどる	昭和の新津駅の再現展示を行う
			新潟交通電鉄、蒲原鉄道など廃線になった私鉄資料の展示を行う
			新潟・新津の鉄道の歴史と生活文化の展示を行う
			鉄道の“記憶”となる鉄道資料の収集を進める
		②魅力的なコンテンツづくりと展示を行う	シミュレーターを新規導入する
			鉄道映像等の更新、新規導入をする
			実車を展示する
			鉄道模型パノラマ展示を見直す
		③鉄道技術の紹介を行う	新潟・新津の鉄道資料を展示する

	ミッション	運営方針	事業内容
	鉄道文化の 発信拠点	④鉄道文化の情報発信を行う	ホームページの作成、ソーシャルネットワークを活用する
			鉄道雑誌掲載や市広報を活用し、マスコミの協力を得る
			全国の鉄道文化施設との連携による効果的な情報を発信する
			地元の人たちから「鉄道のまち・新津」の情報を発信する
			新津駅中にサテライト施設を設置する
			JRのデスティネーションキャンペーンとのタイアップにより情報を発信する
		⑤効率的なマネジメントを行う	資料館の管理運営の体制づくりを行う
			施設運営予算を確保する
			地域団体や鉄道関係団体の協力を得て事業を行う
Ⅲ	人づくりと地域の連携による事業展開	①鉄道文化を学ぶ学校教育を支援する	学校教育における施設活用を支援する
			学校授業等へアウトリーチ活動を実施する
			地域文化と鉄道文化の浸透を図り文化継承と人づくりを推進する
		②地域・市民・企業・鉄道文化施設などとの連携を強化する	まちなかに「鉄道」をキーワードにした仕掛けづくりを行う
			商店街、市民のおもてなし活動を行う
		③鉄道文化と地域文化を担う人づくりを行う	地元市民による鉄道シティガイド（仮称）設置への支援と推進を行う
			地域の鉄道関係者による「新津鉄道資料館サポーター（仮称）」発足への支援と連携を行う

3. 活性化事業の基本的な考え方

資料館では、前項で挙げたミッションと運営方針をふまえ、次の博物館事業の展開を図ります。

（1）資料の収集の強化

- 新潟・新津の鉄道に関わる実物資料を収集します。
- 新潟・新津の鉄道に関わる写真、書籍、研究論文、関係データなどの二次資料に加え、市民の鉄道にまつわるエピソードなどの“記憶”についても、幅広く収集します。

（2）調査研究

- 新潟・新津の鉄道に関わる歴史資料などの調査研究を行います。

（3）展示

- 豊富な実物資料を活かして、「鉄道のまち」としての新潟・新津の歴史を紹介する展示を行うことで、鉄道のまちとして最も栄えた時代の新津駅とその周辺の様子を再現し、鉄道と地域の歴史をたどっていきます。
- 鉄道の実物資料について、役割や仕組みを詳しく分かりやすく説明を添えて展示します。同種の資料が複数ある場合でも、収蔵展示の手法も併用し、できるだけ多くの資料を常時展示するなど、メリハリのある展示を重視します。
- 映像や体験型装置の更新・新規導入により、子どもから大人まで、五感を通して鉄道を体感できる展示を行います。
- 来館者の興味や知識の深度に合わせた情報を提供できるよう、多彩な展示解説の仕組みを備えていきます。
- 常設展示のほか特定のテーマについて詳しく取り上げた企画展を開催します。

（4）教育普及事業

- 学校教育との連携を重視し、わかりやすく、楽しく学んでもらえる展示や教育普及プログラムを実現します。
- 学校などへのアウトリーチ活動を実施します。

（５）情報発信事業

- 館独自のインターネットホームページを開設し、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービスの略。社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービスのこと）やツイッターなどを活用するなどして本資料館を含む周辺施設全体の魅力発信を行います。
- 広く鉄道文化に関する情報発信を行います。

（６）利用者サービス

- ショップ、カフェ、休憩機能、インフォメーション機能などの設置を検討します。
- 親子が鉄道に親しみながら安全に遊べるキッズコーナーの整備を行います。

（７）他館との連携

- 資料の貸借、特別展示の共同企画などの連携の促進を図ります。

（８）地域ネットワーク

- 地元商店街や地域住民に対して、「鉄道のまち」としての誇りを醸成し地域活性化に向けた活動への参画のきっかけとなるよう、普及・啓発プログラムを協働で企画・実施します。
- 駅や商店街、近郊の文化施設など、地域全体を資料館の活動フィールドととらえ、地域住民、地域団体、鉄道関係団体、民間企業などと連携した活動を展開します。
- 鉄道をテーマに、地域全体で取り組むプロジェクトを開催します。
- 市民による（仮称）「鉄道シティガイド」を育成し、活用を図ります。
- 市民をはじめとする鉄道ファンを対象に、（仮称）「新津鉄道資料館サポーター」の制度を設けます。

第4章 展示リニューアル

1. 基本的な考え方

（1）基本方針

鉄道の要衝地の新潟・新津にとって「鉄道」は人々の暮らしや生活、そして産業として地域を支え続けてきたものです。その新潟・新津の歴史と人々の記憶（思い出、エピソードなど）を、固有の魅力・資産として再発見・再評価しながら収集し、様々な展示手法を用いて紹介します。また、雪国である新潟における「鉄道」の歩みは、雪や勾配に挑む技術の歴史の物語であり、技術という視点からも新潟・新津ならではの魅力を有しています。

これらの魅力を資料館の可能性としてとらえ、現資料館が収蔵する豊富な資料、他館や関連する組織・団体などとのネットワークを活かし、地域と人々の記憶とあわせ、「鉄道と人々の物語」として新潟・新津の鉄道文化の魅力を紹介していきます。

（2）展示の全体構成

資料館は、常設展示と企画展示、特別展示を行います。

<p>常設展示</p>	<p>最盛期の新津駅の一部空間再現による導入展示をはじめ、新潟・新津の鉄道とまちの歩みの紹介、関連する組織・団体等の収蔵品の紹介、現資料館の豊富な資料を収蔵しながら紹介する収蔵展示、映像コーナー、屋外における実物車両展示などにより構成する。</p>
<p>企画展示</p>	<p>テーマを設け、自主企画のほか、地域の団体や市民などと協働で展開する。</p>
<p>特別展示</p>	<p>テーマを設け、他館との連携により、年に1～2回、大規模に展開する。</p>

■展示の全体構成

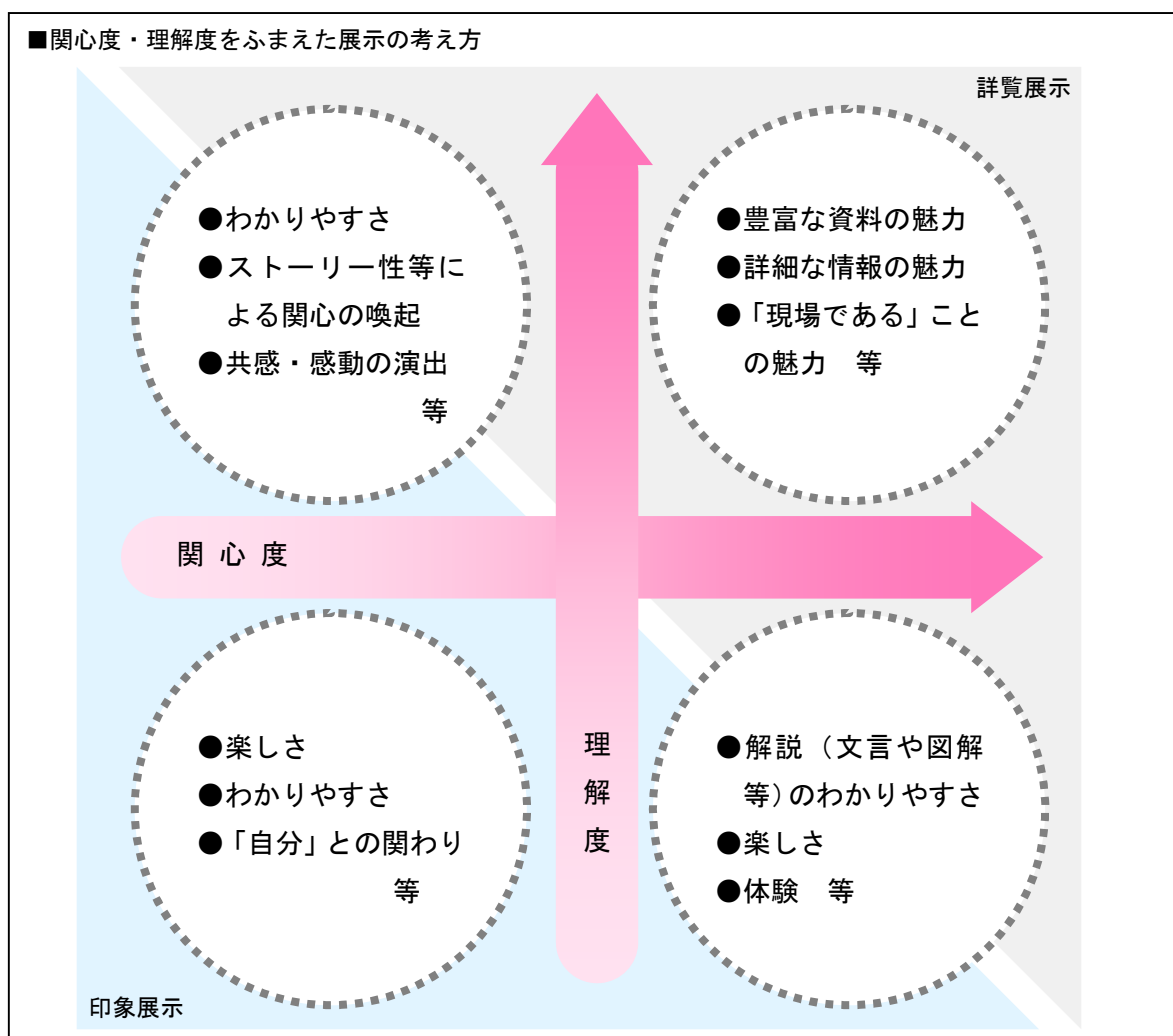


（3）来館者の想定と展示の構造

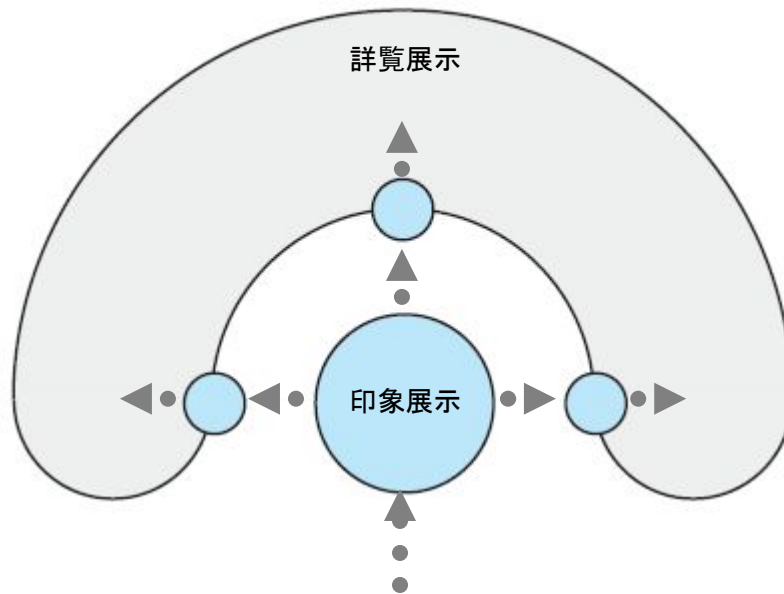
「鉄道」は愛好家（ファン）や非常に深い興味・関心と知識を有するマニアがいる独特の分野であり、様々な年代、レベルで鉄道に対して親しみを持つ人々が数多くいます。一方、情報が専門的になればなるほど、子どもや一般の方々には「わかりにくい」「入っていきづらい」ものになる傾向があります。また、博物館の展示としての視点から見ても、年代による理解度への対応は重要なものとなります。

そのようなことから、展示を展開するにあたっては、子どもや一般の方々にも分かりやすい「印象展示^{*}」と、ファンやマニアが納得する「詳覧展示^{*}」の二層構造として展開し、「印象展示」においては特に解説における言葉の使い方や文言の表記、図解などの見やすさを重視します（※は次頁参照）。これにより、小学校をはじめとする子どもたちや、鉄道に関心のない人を含むファミリー層の利用促進、より関心の高い人々の満足度向上につなげていきます。

ユニバーサルデザインへの対応についても、同時に配慮を行うこととします。



■展示の二層構造 「印象展示」と「詳覧展示」



印象展示

【ポイント】

- テーマのエッセンスを分かりやすくまとめた形で紹介する展示
- この部分の展示を閲覧することで、必要最低限の情報を得ることができる内容とする
- 演出照明等、適切な展示手法を用い、「まず視線を集める」、「見てみたくなる」ものとする

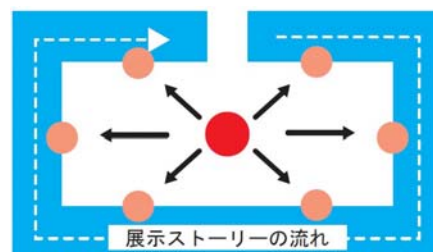
詳覧展示

【ポイント】

- テーマを深く理解できる情報を紹介する展示
- 実物資料等に関して十分な解説を行う内容とする
- 解説グラフィックや映像、模型等、伝える内容に応じて適切な展示手法を用い、深い理解を促す

* 展示の二層構造と展示ストーリーの展開イメージ

- 印象展示 : 各展示コーナーのエッセンスをまとめた展示
- 詳覧展示 : 各展示コーナーの詳細な展示
- シンボル展示 : 各展示コーナーを象徴する展示資料



2. 常設展示

（1）基本方針

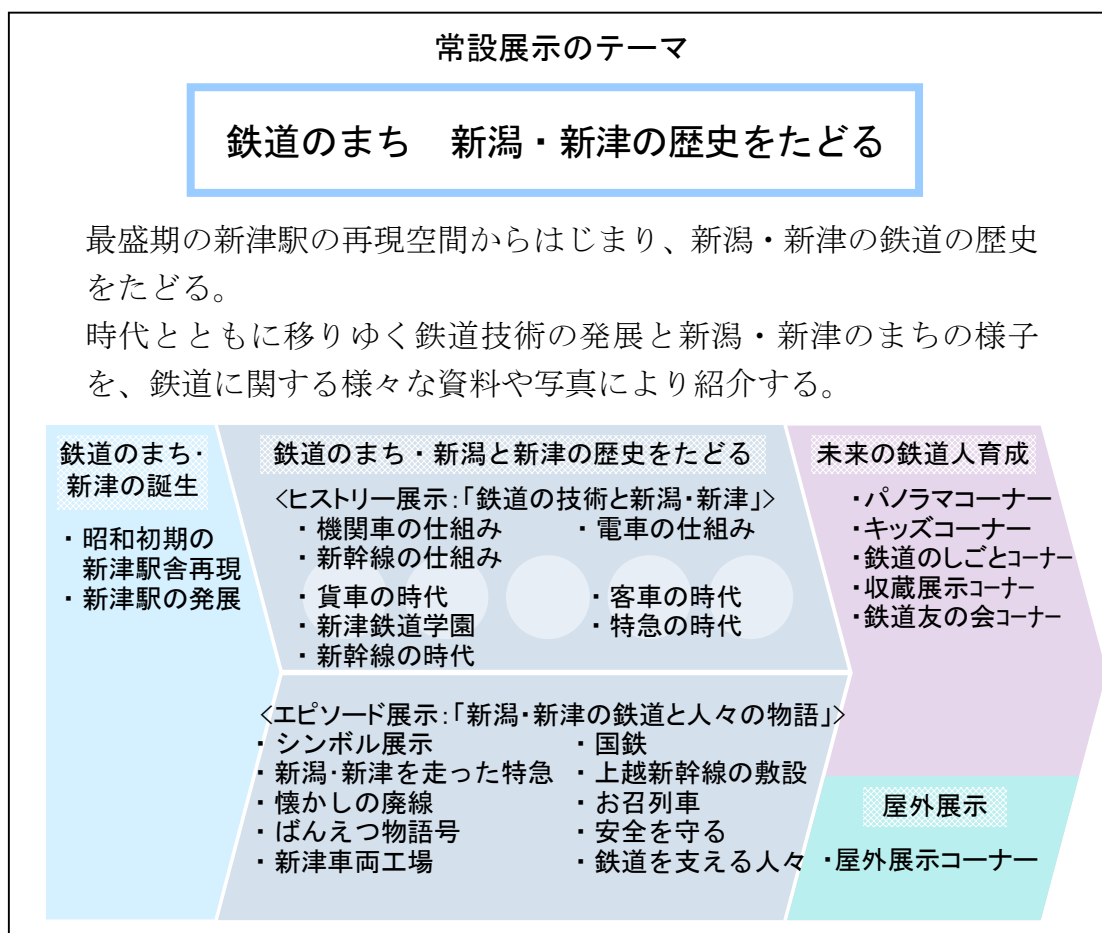
資料館では、収蔵品のほか、関連する組織や団体の豊富な資料を用いて、新潟・新津の鉄道の歩み、そして地域との深い関わりについて紹介します。広い範囲にわたり多様なレベルでの情報を扱うこととなりますが、「わかりやすさ」と「より深い興味・関心への対応」をともに重視し、訪れる誰もが、その関心に応じて満足感を得られるような、そしてさらなる興味・関心の喚起につながるような展示を行います。

資料には切符や写真など長期間の展示による劣化が懸念される素材のものも多く、将来にわたって貴重な資料の保存が図られるよう、収蔵展示やこまめな展示替えを行うなど、素材及び環境をふまえた展示活動を行うこととします。

（2）常設展示の展示構成

①メインテーマとその展開

資料館の常設展示のテーマは下記の通りとします。



②展示構成

常設展示は、以下のような構成とします。

大項目	中項目	小項目
1. 鉄道のまち ・新津の誕生	1-1 シンボル展示 新津駅最盛期を象徴する展示。	1-1-1 シンボル
	1-2 昭和初期の新津駅再現 導入展示として、最盛期の新津駅の姿を再現する。「鉄道のまち」の歴史的景観として象徴的なものとするとともに、若い来館者にとっては新鮮な体験ができる空間とする。	1-2-1 駅舎内部、券売、改札などの再現
		1-2-2 ホームの再現
	1-3 新津駅の発展 明治時代から大正、昭和の初期頃までの新津駅の発展・拡大の様子を紹介する。	1-3-1 鉄道のまちへ
		1-3-2 新津駅の変遷
		1-3-3 機関区の設置
		1-3-4 ミニシアター
		1-3-5 日本の鉄道の黎明期
	2. 鉄道のまち・ 新潟と新津の歴史をたどる [ヒストリー展示] 鉄道の技術と新潟・新津	2-1 シンボル展示 機関車を象徴する展示。
2-2 機関車の仕組みと技術 鉄道の歴史に関する基本情報として、蒸気機関車、ディーゼル機関車の機構・技術についてわかりやすく紹介する。		2-2-1 蒸気機関車の仕組み
		2-2-2 蒸気機関の仕組み

展示内容	主な展示資料
・最盛期の新津駅の姿	・大正初期～昭和初期の新津駅(写真) 等
・最盛期(昭和初期頃)の新津駅の駅舎内部空間の再現	・改札鉄 ・青サボ(行先表示) ・定期運賃表 ・乗車券箱 ・硬券日付文字印器 等
・客車、車掌、駅弁販売員を含めたホームの空間再現	・羽越本線の0 km標識 ・新津駅配線略図 ・縦板サボ「にいつ」 ・新津駅構内時計 ・ホーム用撒水車 ・行先表示(サボ) 等
・新津の地域特性の紹介 ・貨車が支えた日本経済の紹介	*「新津市の近代史」コーナーの写真 等
・明治時代の初代新津駅の姿から、最盛期の 大正から昭和初期、一等昇格の様子 等、新津駅の発展の様子を、写真パネル や貴重な辞令書等の実物資料を用いて 紹介する	・初代新津駅(写真) ・大正初期～昭和初期の新津駅(写真) ・電化前、戦前の新津駅(写真) ・昭和42年・国鉄現業機関分布図(写真) ・職員辞令書 ・新津駅一等昇格に関する写真 等
・機関区の概要解説とともに、写真を用い て当時の機関区の姿、様子を紹介する	・SL全盛期の新津機関区(模型) ・建設間もない頃の新津機関庫(大正10年)写真 ・新津機関区機関庫写真 等
・駅の内外観、当時の人々を含めた利用の 様子等の紹介	
・日本の鉄道史を紹介し、その中で新津の 位置づけを紹介する	・解説年表(新規)
・SLの正面を象徴する煙室扉(収蔵品)	・SL9634号機 煙室戸(扉) 等
・鉄道学園で用いられた教材を活かし、情 報を補足しながら、ビジュアルを用いて 蒸気機関車の全体構造についてわかり やすく紹介する	・蒸気機関車全体図 ・蒸気機関車各部の名称と運転区間の説明(写真) 等
・鉄道学園で用いられた教材を活かし、情 報を補足しながら、ビジュアルを用いて 蒸気機関、動力の仕組み等をわかりやす く紹介する	・ワルシャート式弁装置 解説パネル ・蒸気機関車駆動装置模型(ワルシャート式弁装置) 等

大項目	中項目	小項目	
2. 鉄道のまち・ 新潟と新津の歴史をたどる [ヒストリー展示] 鉄道の技術と新潟・新津		2-2-3 ディーゼル機関車の仕組み	
		2-2-4 ディーゼル機関の仕組み	
		2-2-5 各部の部品	
		2-2-6 車両	
		2-2-7 運行	
		2-3 電車の仕組みと技術 鉄道の歴史に関する基本情報として、電車の仕組み、技術について紹介する。 また、昭和 30 年代以降の鉄道の電化を中心に、動力の近代化と上越線、信越線で展開された鉄道技術の進歩、戦後日本の経済成長を支えた鉄道の姿を紹介する。	2-3-1 鉄道の電化とは
			2-3-2 電車の車両
2-3-3 電車の機構			
2-3-4 基盤整備			

展示内容	主な展示資料
<ul style="list-style-type: none"> ディーゼル機関車の特性等について紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> 解説グラフィック 等
<ul style="list-style-type: none"> ディーゼル機関の特性等について紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> 解説グラフィック 等
<ul style="list-style-type: none"> 機関車の車両内部について紹介する 連結器・制動機・注水器・給油機・圧縮器等、実物資料の役割等について全体像を示しながらわかりやすく紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキ弁 空気圧縮機 自動連結器(並型、柴田式) 両用連結器 中間連結器 汽笛(5階音) 等
<ul style="list-style-type: none"> 当時の写真等により様々な種類の機関車を紹介する 機関車銘板、製造銘板等を通じて、新津にゆかりのある車両について紹介を行う 	<ul style="list-style-type: none"> D51形蒸気機関車銘板(1060号機、219号機、1049号機、1157号機、1030号機等) C57形蒸気機関車銘板(180号機等) 大宮工場 昭和15年製造 製造銘板 三菱製造銘板 昭和21年第514号 製造銘板 日立 昭和14年 製造銘板 新潟鐵工所 製造銘板 重量換算銘板 5枚 等
<ul style="list-style-type: none"> 実物資料を用いて運転室内の紹介を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 自動ブレーキ弁ハンドル 新潟鉄道局機関車配置表 8620型式 運転室内(写真) 等
<ul style="list-style-type: none"> 鉄道の電化について、時代背景の解説を行う 電化の仕組みについてわかりやすく紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道なるほど その1(解説パネル) 等
<ul style="list-style-type: none"> 写真や図解等を用いて、電車の特徴をビジュアル的にわかりやすく紹介する 様々な種類の電車を紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道なるほど その2(解説パネル) 鉄道なるほど その3(解説パネル) *181系特急形直流電車(写真)等、「写真パネル(電車)」コーナーの資料 等
<ul style="list-style-type: none"> 連結器・制動機等の実物資料及び解説グラフィック等を用いて、電車の機構についてわかりやすく紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> 旧型電車用主制動器(CB13B形遮断器、CB12B形遮断器) 自動連結器・開放装置付(貨車用)等
<ul style="list-style-type: none"> レール、電車線、発電装置、パンタグラフ等、実物資料及び解説グラフィック等を用いて、電車の基盤整備についてわかりやすく紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> 各種レール 線路の断面 在来線特急用車輪 新幹線用車輪と車軸 岡村貢翁(写真パネル) 制御器一式(パンタグラフ操作) 橋梁銘板 等

大項目	中項目	小項目
2. 鉄道のまち・ 新潟と新津の歴史をたどる [ストーリー展示] 鉄道の技術と新潟・新津	2-4 新幹線の仕組みと技術 新幹線の車両及び機構等について紹介する。	2-4-1 新幹線とは
		2-4-2 新幹線の車両
		2-4-3 新幹線の機構
	2-5 貨車の時代 汽船が主に用いられていた明治期の新津の光景から、明治40年頃、貨物列車が大きく姿を現し、経済・産業の重要なインフラとなっていく昭和20年頃までの歴史を紹介する。	2-5-1 貨車-新津の物流の歴史-
		2-5-2 新潟・新津の写真
	2-6 客車の時代 「モノ」を運び、そして「人」を運ぶ。基幹輸送・移動手段としての鉄道の発展の歴史と、客車の設備、内装等、その姿について紹介する。	2-6-1 客車の車両
		2-6-2 客車の車両部品
		2-6-3 客車の内装
		2-6-4 運行
		2-6-5 戦中・戦後
		2-6-6 新潟・新津の写真

展示内容	主な展示資料
<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線の登場と役割、特性等について紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・解説グラフィック 等
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の車両を紹介する（東海道新幹線、上越新幹線の違い等） ・在来線との違いを紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線の車両(写真) 等
<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線の車輪やレール等の機構について紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線用車輪と車軸レール ・軌間パネル模型 等
<ul style="list-style-type: none"> ・汽船から鉄道へ、物流の歴史について紹介する ・郵便車、貨物車等、鉄道が運んだ数々の「モノ」を通して、物流を支える重要なインフラである鉄道について紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・安新丸（写真） ・台秤(カンカン秤) ・鉄道省宅扱貨物取扱所（表示板） ・鉄道宅扱貨物取扱所（表示板） ・日本通運株式会社（表示板） ・宝田石油会社の石油積出し（写真） 等
<ul style="list-style-type: none"> ・明治～大正頃、鉄道により繁栄するまちの様子を紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新津市の近代史」コーナーの写真 ・明治 30 年代頃の二の町通り(写真) ・明治末期の駅前通り(写真) 等
<ul style="list-style-type: none"> ・客車の特徴について紹介する ・様々な種類の客車紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・国鉄瓦版 ・明治 5 年 新橋・横浜間開業（絵図） ・明治 5 年 新橋駅（絵図） 等
<ul style="list-style-type: none"> ・室内・作業灯等の役割、使われ方等について紹介し、「客車」がどのようなものであったのか、より具体的に紹介を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・貨車用蓄電池 ・ロータリーインバーター ・白サボ ・列車拡声装置増幅器 ・貨車用蓄電池 ・電車吊カワ 等
<ul style="list-style-type: none"> ・車内テーブルや灰皿、扇風機等、実物の客車設備を通して、客車の内部空間についてより実感を持って伝わる紹介を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・客車用小テーブル ・鉄道車両用灰皿 ・交・直流扇風機 ・旧型客車灯 ・旧型荷物車灯 等
<ul style="list-style-type: none"> ・運行関連図表により、客車の運行のあり方について紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・新津駅構内ダイヤ 等
<ul style="list-style-type: none"> ・戦争を通して変わった様々なものを通して、日本の鉄道における戦前・戦後の転換点を紹介する ・復員列車、買出し列車等、戦後の日本において鉄道が果たした役割について紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・小国駅ステーション時計 ・時間表(車掌用時刻表)(昭和 22 年) ・昭和 21 年復員列車(久里浜駅) ・昭和 21 年東京駅 ・昭和 21 年買出し列車(日暮里駅) ・北朝鮮帰還専用車両サボ 等
<ul style="list-style-type: none"> ・戦後頃のまちの様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新津市の近代史」コーナーの写真資料 等

大項目	中項目	小項目
2. 鉄道のまち・ 新潟と新津の歴史をたどる [ヒストリー展示] 鉄道の技術と新潟・新津	2-7 新津鉄道学園 新津鉄道資料館の前身であり、国鉄の人材育成の場であった新津鉄道学園について、かつて校舎として使用されていた時代の様子を紹介する。	2-7-1 新津鉄道学園
	2-8 特急の時代 明治期、日本初の特急列車「富士」から上越線を代表する「とき」まで、速さと快適性を重視した特急について、その歴史を紹介する。	2-8-1 特急の車両
		2-8-2 新潟・新津の写真
	2-9 新幹線の時代 日本の高度経済成長の象徴である新幹線。世界に類例のない急峻な勾配と雪への挑戦を克服した上越新幹線について、東海道新幹線と比較しながらその特徴を紹介する。	2-9-1 新幹線の登場
		2-9-2 新潟・新津の写真
	3. 鉄道のまち・ 新潟と新津の歴史をたどる [エピソード展示] 新潟・新津の鉄道と人々の物語	3-1 シンボル展示 「鉄道と人々の物語」を象徴する展示。
3-2 国鉄 「国鉄」について、その歴史、規模等の概要をわかりやすく紹介する。制服や腕章、肩章等の職員用品について、どのように用いられていたか、それぞれが持つ意味なども合わせ、紹介する。 また、国鉄から JR への大転換点について、国鉄最後の日として紹介を行う。		3-2-1 日本国有鉄道
		3-2-2 職員用品
		3-2-3 国鉄最後の日
3-3 新潟・新津を走った特急 新潟・新津を走った特急のヘッドマークを一堂に紹介する。		3-3-1 シンボル

展示内容	主な展示資料
<ul style="list-style-type: none"> ・新津鉄道学園の概要を紹介する ・当時使われていた教材（テキスト、研修資料等）を通して、学園の営み、役割について紹介する ・生徒の備品（生徒手帳、校章等）や思い出（写真やエピソード）を通して、「学園生活」の様子を紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟鉄道学園遠景（写真パネル） ・新潟鉄道学園の全景（模型） ・200系新幹線電車（基礎編）新潟鉄道管理局 ・「新幹線コーナー」の模型 ・主制御器一式（パンタグラフ操作） ・MT54形主電動機模型 ・教材用運転シミュレーター 等
<ul style="list-style-type: none"> ・特急の特徴について紹介する ・東海道線の日本最初の特急の登場と新潟・新津における特急の登場 ・様々な種類の車両について紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治45年 新橋・下関間特急展望車（写真） ・特急「富士」展望車（写真） ・昭和4年 特急富士展望車（写真） ・昭和25年 特急「つばめ」女子列車給仕（写真）
<ul style="list-style-type: none"> ・昭和50年代頃のまちの様子 	
<ul style="list-style-type: none"> ・上越新幹線の特徴について紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線の客室ビュフェ、新幹線の客車内等の写真 ・上越新幹線、東海道新幹線の構造等の解説パネル ・新幹線運転司令所（写真） 等
<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線開通時のまちの様子 	
<ul style="list-style-type: none"> ・膨大かつ多岐に及ぶ技術の集合体であり、運行においては安全性、正確性が厳守される鉄道を支える「人」の存在を印象深く伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・運転従事員が使用した懐中時計 ・腕章、襟章 等
<ul style="list-style-type: none"> ・「国鉄」とはどういうものであったのか、その規模、役割等についてわかりやすく紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国有鉄道案内図（北海道）（東北・上越）（関東・中部・近畿）（中国・四国・九州） ・特急「とき」号設置の日本国有鉄道イニシャル板「JNR」等
<ul style="list-style-type: none"> ・制服、肩章、襟章等の職員用品を通じて、国鉄を支えてきた「国鉄マン」の誇り、気概等の精神性について紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道員職員服制公布資料 ・新幹線運転士制服 ・主要駅駅長制服 ・腕章（機関誌 ENGINE MAN）など ・機関士かばん ・鐵道省 防災組制服 等
<ul style="list-style-type: none"> ・国鉄最後の日の入場券、写真等を通して、日本の鉄道史における大転換点を象徴的に紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・国鉄最後の新潟県内入場券と駅写真一覧 ・国鉄時代最後の新潟駅時刻表 等
<ul style="list-style-type: none"> ・特急のシンボルであるヘッドマークを紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・特急「鳥海」号ヘッドマーク ・特急「出羽」号ヘッドマーク ・特急電車シンボルマーク（クハ181-102） ・特急「とき」号ヘッドマーク

大項目	中項目	小項目
3. 鉄道のまち・ 新潟と新津の歴史をたどる [エピソード展示] 新潟・新津の鉄道と人々の物語	3-4 上越新幹線の敷設 大清水トンネル工事を中心に、難事業であった上越新幹線敷設について紹介する。	3-4-1 上越新幹線の敷設
	3-5 懐かしの廃線 赤谷線、新潟交通、蒲原鉄道等、かつて新潟・新津を走っていた路線、地方電鉄を紹介する。	3-5-1 懐かしの廃線
	3-6 お召列車 昭和22年、36年、39年、47年の御巡幸のお召列車の姿を紹介する。	3-6-1 お召列車
	3-7 ばんえつ物語号 平成11年に復活した「ばんえつ物語号」について、復活エピソードをまじえ紹介する。	3-7-1 ばんえつ物語号
	3-8 安全を守る 安全確保に向けての様々な技術や取り組み、雪の中で行ってきた保線整備等について紹介する。	3-8-1 保安
		3-8-2 防雪・除雪
	3-9 鉄道の未来を担うまち－新津車両製作所－ 鉄道員の養成の拠点であった新津鉄道学園及び国鉄新津工場から始まる新津車両製作所の歴史をひもとくとともに、車両工場における最新の車両製造の様子を紹介する。	3-9-1 新津運輸区
		3-9-2 新津車両製作所

展示内容	主な展示資料
<ul style="list-style-type: none"> ・大清水トンネルをはじめとする、難事業であった上越新幹線敷設の様子を紹介する ・耐寒・耐雪への取り組みについて紹介する ・電車線、保線等、基盤整備のあり方について紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・大清水トンネル掘削断面模型 ・上越新幹線大清水トンネル貫通石 ・トンネル工事写真 ・完成間近い大清水トンネル(写真) ・新幹線の風景と駅舎(写真) ・新幹線散水設備(写真) 等
<ul style="list-style-type: none"> ・赤谷線、新潟交通、蒲原鉄道について、基本情報（開業期間、運行区間等）、鉄道車両の姿、当時の光景写真や路線図等により、全体像を紹介する ・駅等で使用されていた備品等により、当時の駅舎などの雰囲気を紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤谷線東赤谷駅継電連動制御盤 ・東赤谷駅構内配線畧図 ・新潟交通電鉄自動両替器付運賃箱 ・蒲原鉄道線路絵図 ・蒲原鉄道豪雪風景(写真) ・新潟駅電車乗入れ計画図面 ・新潟交通 駅名標 ・新潟交通 乗車券受箱 等
<ul style="list-style-type: none"> ・お召列車立体年表 	<ul style="list-style-type: none"> ・お召列車写真 ・ヘッドマーク ・車両銘板 ・新潟国体のときの天皇・皇后両陛下（写真） 等
<ul style="list-style-type: none"> ・C57 180 号機について、写真等を用いて車両の特徴を紹介する ・復活エピソードについて、写真を交え物語として構成し、わかりやすく紹介する ・初号機やイベント時のヘッドマーク、車掌制服等、ばんえつ物語号ならではの魅力を紹介する ・映像や写真パネル等で、ばんえつ物語号が走る四季の風景を紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「SL ばんえつ物語」号ヘッドマーク ・C57180 履歴簿 ・ばんえつ物語号車掌制服 ・「森と水とロマンの鉄道 SL ばんえつ物語」パンフレットバックナンバー ・C57 形蒸気機関車 180 号機の保存から復元までに関する写真 等
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道における厳守される安全性確保について、保線・保安の様々な設備、仕組み等を通して紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・信号炎管点火装置 ・脱線転覆事故の写真(昭和 36 年 2 月羽越線) ・警鐘 ・保線車両 等
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大きな特徴である防雪について、道具のほか、「人」が果たしてきた仕事について、写真等を通して紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・雪の中の保線作業風景写真 ・ラッセル車模型 等
<ul style="list-style-type: none"> ・運輸区の役割や仕事について、基地や配置車両の変遷等を立体年表として構成し、わかりやすく紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・看板 ・SL 全盛期の新津機関区(模型) ・新潟機関区機関庫写真 等
<ul style="list-style-type: none"> ・車両工場が新津に決まるまでの経緯を写真等を用いてドラマティックに紹介する ・新津工場と新津のまちの関わりについて写真やエピソード、資料等で紹介する ・現代の車両製造のあり方について紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・開業式当日の工場全景(写真) ・昭和 30、38、53 年の工場鳥瞰図(写真) ・現在の施設紹介 ・これまでに製作された車両の紹介 ・車両が製作される過程の鉄道資料 等

大項目	中項目	小項目	
3. 鉄道のまち・ 新潟と新津の歴史をたどる [エピソード展示] 新潟・新津の鉄道と人々の物語	3-10 鉄道を支える人々 住民の4人に1人が鉄道関係者と言われた新潟・新津で鉄道に関与してきた人々の姿・鉄道の仕事等について、明治期から現在に至るまで、主な概要を紹介する。	3-10 鉄道を支える人々	
4. 未来の鉄道人育成	4-1 パノラマコーナー ゆっくりと休みながらパノラマを楽しむことができる。	4-1-1 新潟・新津の鉄道 4-1-2 インフォメーションコーナー	
	4-2 キッズコーナー 子どもたちが楽しみながら鉄道の楽しさにふれることができる。	4-2-1 鉄道クイズ 4-2-2 鉄道ひろば	
		4-3 鉄道のしごとコーナー 今の鉄道の仕事の紹介。鉄道に対する愛着を一層深め、将来の鉄道を支える人材として育つきっかけを与えるコーナー。	4-3-1 鉄道のしごとハローワーク
	4-4 収蔵展示コーナー 展示室内で展示しきれない貴重で人気の高い資料を収蔵しながら見学できる。	4-4-1 切符類 4-4-2 時刻表 4-4-3 銘板・表示板	
		4-5 鉄道友の会展示コーナー 友の会のコレクション等の展示を行う。	4-5-1 鉄道友の会
		5. 屋外展示	5 屋外展示コーナー 実物車両の新幹線 200 系（M c 221）、S L C 57 19 号機を展示し、見て触れる楽しさを提供するほか、木製表示板等、実物資料の屋外展示を行う。

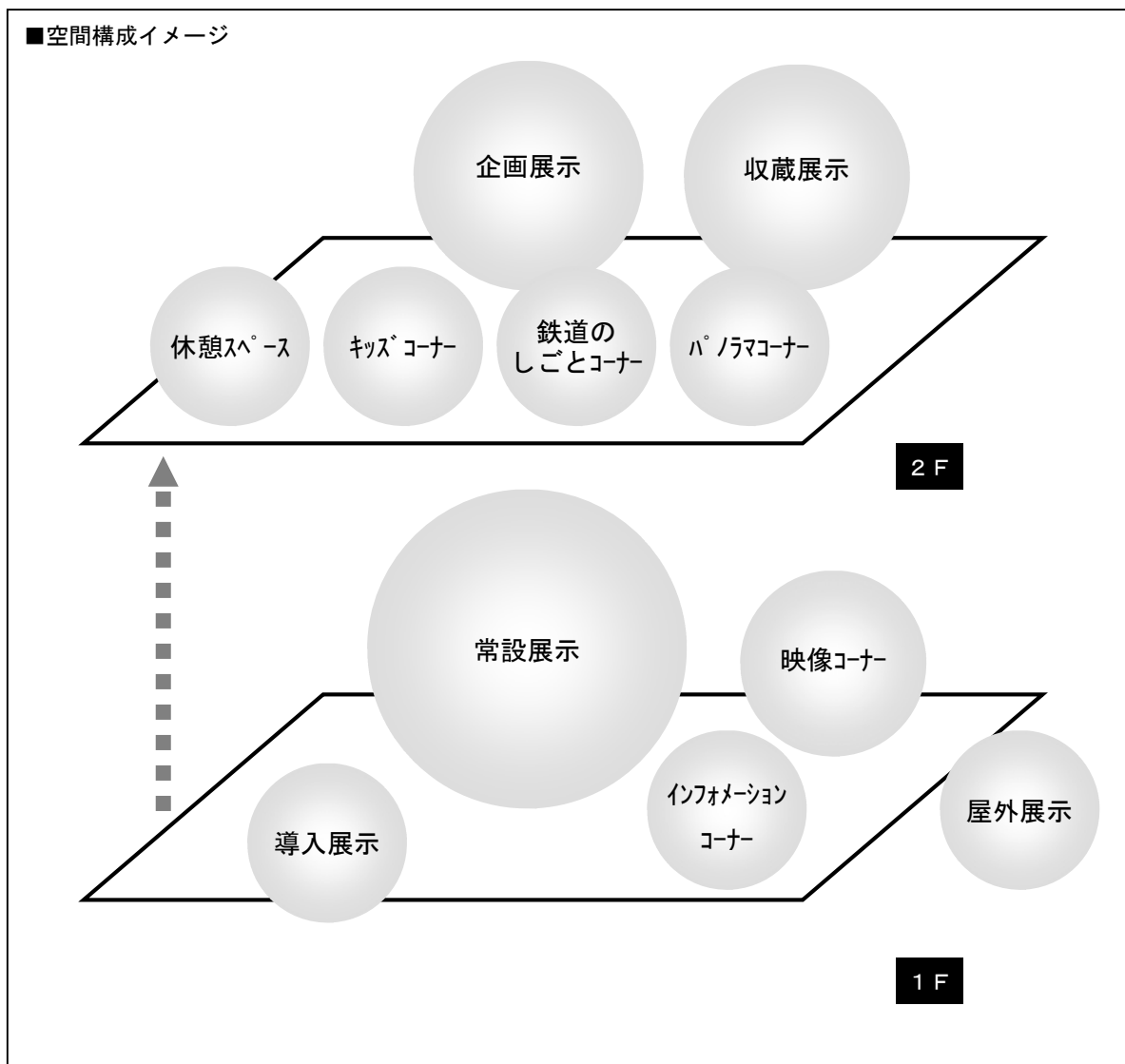
展示内容	主な展示資料
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道の多様な仕事について、種類、内容等を紹介する ・「鉄道マン」のスピリットについて、エピソードを収集し、写真等をまじえ紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・機関区、保線等での仕事の風景写真 ・鉄道の仕事に関するエピソード ・「鉄道マン」の誇り・精神を伝えるエピソード 等
<ul style="list-style-type: none"> ・パノラマ 16 番(HO)ゲージ ※新規 	
<ul style="list-style-type: none"> ・新津鉄道資料館で実施する活動の案内。 ・新津商店街、新津駅、新潟駅等で実施されるイベント等の案内。 ・ネットワークを構築する他のミュージアムの事業活動の案内。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・フラップ式等、楽しみながら鉄道に関する知識を深めることができるクイズコーナー。 ・鉄道に関連する玩具等を集めた遊びの空間。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道に関する様々な職業、仕事をわかりやすく紹介する。 ・その職業につくために必要なこと（修学内容等）を紹介する。 <p>※イベントとして鉄道関係者による直接紹介、所作等の体験を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フラップ式職業案内・解説パネル 等
<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリーやテーマ別に分類し、豊富な資料点数を魅力として紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記念入場券 等 ・国鉄時代の時刻表、J R以降の時刻表 等 ・「鉄道のあゆみと銘板コーナー」の青サボ、縦板サボ、短冊プラスチックサボ 等
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道友の会の企画・運営による企画展示。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・実物車両 ・木製表示板 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・C57 19号機 ・上越新幹線 200 系先頭車両

（3）展示空間の考え方

①施設の空間構成

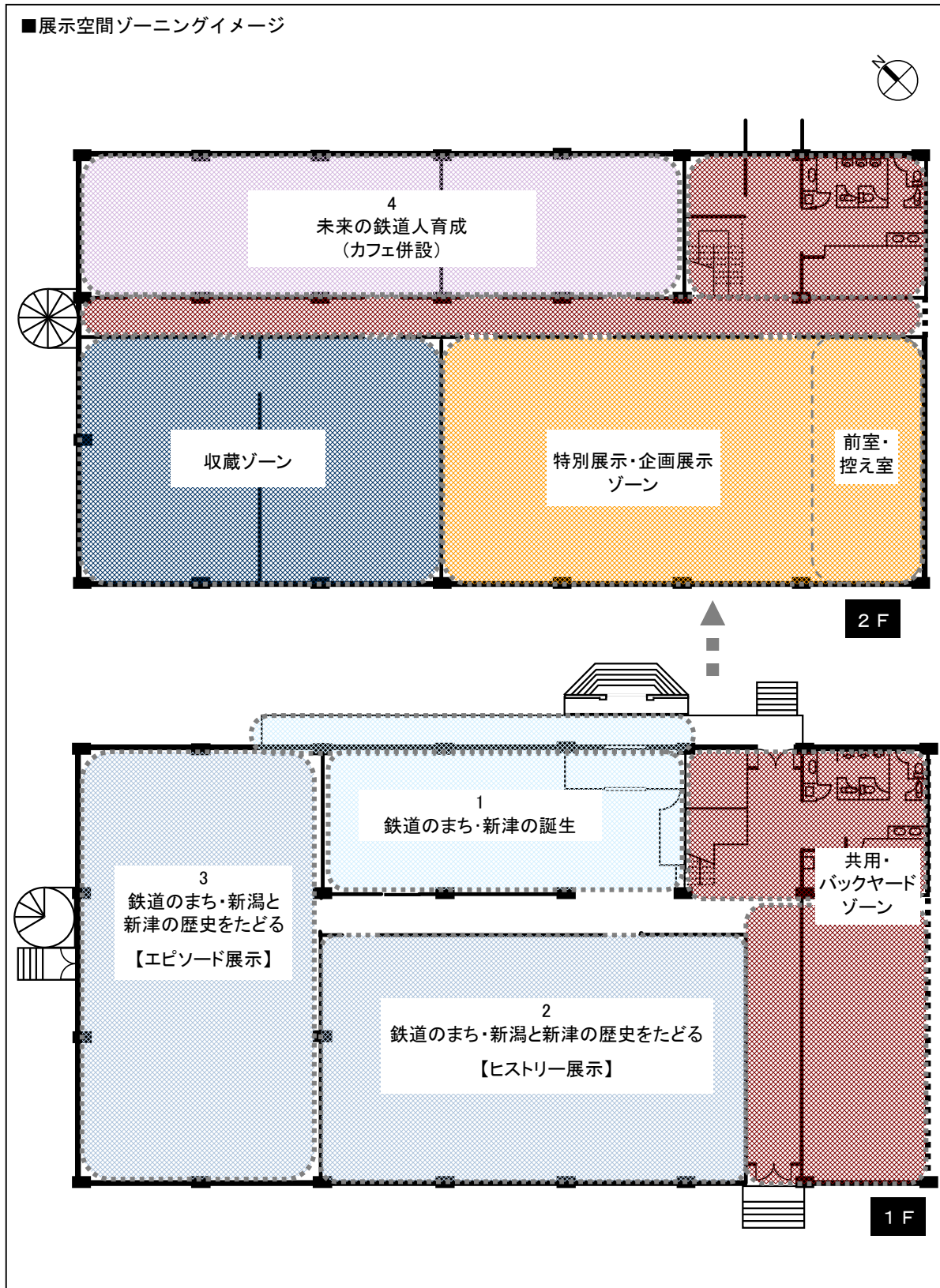
資料館の1階は、導入展示、常設展示、映像コーナー（ミニシアター）、インフォメーションコーナーなど、一般の方々の興味・関心を喚起させる内容を中心に展開します。2階は十分な広さを活かし、企画展示、収蔵展示、またカフェ等の休憩スペース、遊びと学びのスペースであるキッズコーナー、パノラマコーナーなどを展開します。

既存施設の活用であるため、それぞれの空間は大きな制約を受けることとなりますが、現施設の空間特性を活かし、魅力ある展示を行っていくこととします。

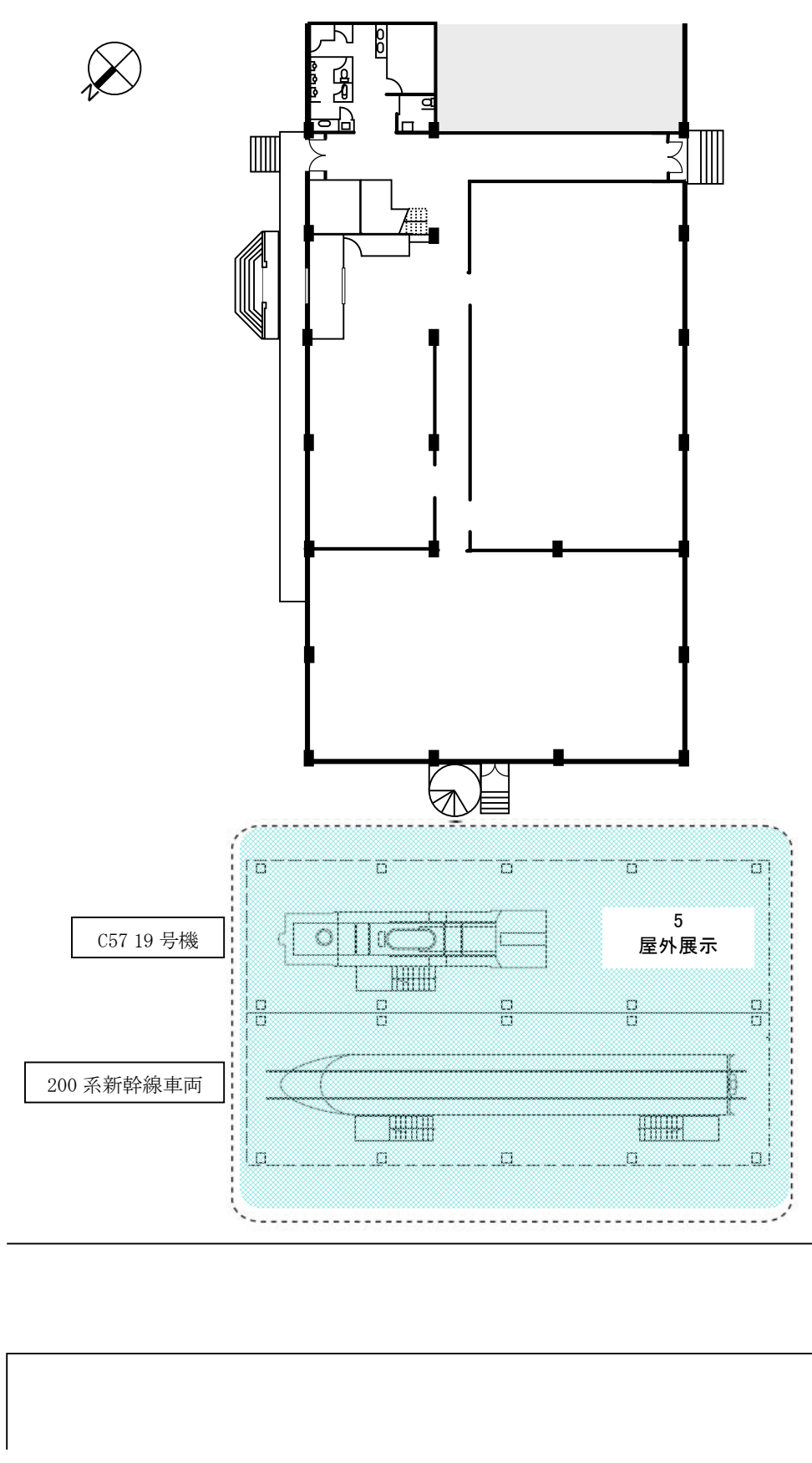


②展示空間ゾーニングイメージ

展示を行う空間について想定すると、下記のような展開が考えられます。



■展示空間ゾーニングイメージ（屋外）



（４）常設展示の手法

①条件

展示を行うにあたっては、より深くテーマや資料について理解を促すためのストーリーの構成に基づき、実物資料をより印象的に見せるための照明や展示ケース、情報を補完する解説グラフィックパネルや模型、映像、音響などを適切に組み合わせ、「新津鉄道資料館」として一つの世界観をつくりあげていくことが重要です。

一方で前身が新津鉄道学園である現資料館は、十分な天井高や大空間が確保できず、展示空間として最適であるとは言い難い状況にあります。展示のリニューアルに際しては、これらの条件をふまえ、可動性や更新性を重視しながら適切な手法を検討することが求められます。

②展示手法の検討

展示の手法としては、下記に示すような展開があります。

■展示手法事例① 【展示コーナー構成】

①映像や模型を使った仕組みの解説



②グラフィックを使った実物資料の解説



③テーマ別のコーナー展示

写真と実物資料やレプリカ、解説をセットとし、テーマ毎に1つのコーナーに展示する



④テーマに関わる多種多様な資料を集約した展示



■展示手法事例② 【多くの資料を展示する工夫】

①引き出し式展示ケース



[鹿児島県奄美パーク]



[地下鉄博物館]

②たんす型展示ケース

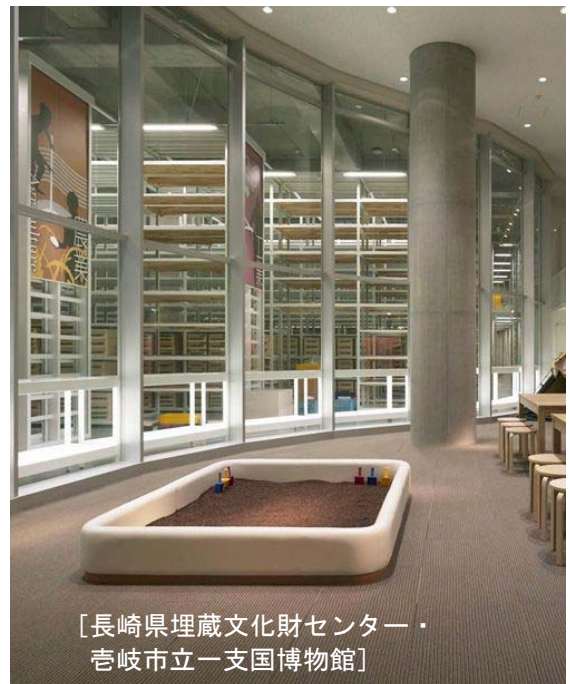
たんすの扉には、獲物となる魚や鳥が紹介されており、たんすを開けると狩猟のための道具が展示されている



[新潟市歴史博物館 「みなとぴあ」]

③収蔵展示

収蔵庫の壁面が透明になっており、収蔵されている資料の様子がうかがえる



[長崎県埋蔵文化財センター・
壱岐市立一支国博物館]

■展示手法事例③ 【年表を軸にした展示】

①実物資料を導入した立体年表



②文書や絵図を導入した年表



■展示手法事例④ 【シーンを再現する展示】

①駅の再現展示



②人形や模型を使った情景再現



■展示手法事例⑤ 【展示の工夫】

①学校をモチーフにしたデザイン

黒板にチョークで描いたようなデザインの解説パネル



[長野市立博物館分館
戸隠地質化石博物館]

ロッカー型展示ボックス



[長野市立博物館分館
戸隠地質化石博物館]



[豊橋市自然史博物館]

②展示解説とフラップ式Q&Aコーナーの組合せ

上段グラフィックには展示解説、下段に関連するクイズの問題が書かれたパネルがぶら下げられており、パネルをめくるとクイズの答えが見られる



[地下鉄博物館]

③写真を複数展示する工夫

ラミネート加工した写真にリングを取り付け、固定した金具にぶら下げている



[EXPO'70 パビリオン]

3. 企画展示・特別展示

（１）基本方針

資料館は、常設展示のほか、テーマを設け地域の団体や市民などと協働で展開する企画展示と、他館との連携により資料の貸借を行い大規模に展開する特別展示を行います。

これらの活動は、多様な展示活動を展開することで常に新しい魅力・情報を資料館から発信することを目的とするものです。

また、この活動そのものを通して、地域や関連する団体、また同じ「鉄道」というテーマを掲げる他の博物館などと柔軟かつ弾力性のある連携体制を構築につなげていくことも重視します。

活動の展開にあたっては、必要な運営体制の構築及び展示環境の創出を図ることとします。

（２）展開にあたって

①運営体制づくり

学芸員の採用及び育成とともに、鉄道OBなど豊かな知識と経験を有する人材との協力体制の強化を図り、豊富な資料を「守り」、より「活かす」運営体制を構築していきます。

また、地域や関連する団体や組織、他館との連携体制構築も積極的に図り、企画展示、特別展示を持続的・発展的に展開していくために必要な運営体制づくりを行います。

②展示環境づくり

現資料館は建築上、展示空間として十分な天井高や大空間が確保できないという環境です。

このような条件をふまえつつ、可能な限り適切な展示環境を整えるべく、例えば展示室においては可動式の間仕切り壁や可動式展示台などを用いるなど、目的に応じた多様な展示環境づくりを行います。

第5章 施設リニューアル

1. 基本的な考え方

多くの人々に訪れてもらい、快適に展示を観覧できる施設とするためには、展示のリニューアルとともに施設そのもののリニューアルも求められます。そのようなことから、前述の現状評価などをふまえ、設備及び建築について見直しを図ることとします。

施設リニューアルを行うにあたり、以下のことを基本方針とします。

ミッションの実現に向け、新たな事業活動を行う場にふさわしい改修

資料館のミッション及び運営方針をふまえ、新たな事業活動を行う場としての機能を満たし、来館者及び運営にあたる者が利用しやすい施設となるよう見直しを行います。

誰もが利用しやすい施設としての改修

特に来館者動線の構築に際し、可能な限りユニバーサルデザインの視点に配慮した改修を検討します。

2. リニューアルの内容

施設リニューアルは、来館者の利便に供するところを重視し、効果的な改修・整備を行うこととします。

特に、収蔵庫及び搬入動線などについては、順次、改修・整備を進め、来館者が利用しやすい魅力ある施設づくりを行うこととします。

(1) 設備関連

- 館内の冷暖房施設が不十分なため、夏は暑く、冬は寒い状況にあります。観覧環境が不十分であることから、空調設備の改修を図ります。
- 一般的な照明器具の使用は、作品の管理の長期的視点から、作品の劣化を進行させる懸念があるため、作品の展示に耐えうる照明機材の導

入を進めます。

（２）建築関連

- 職員が常駐する事務所を１階に設置し、バックヤードを設けます。
- 新たに２階部分を活用し、資料収蔵庫や常設展示、企画・特別展示ができるゾーンを設けます。

第6章 新津駅中サテライト

1. 基本的な考え方

現在の鉄道資料館の位置は、新津駅から2km以上離れており、駅から資料館までは、自動車又は路線バスでの移動がメインとなり、駅から徒歩での移動は非常に厳しい環境にあります。一方、新津駅は「鉄道のまち新津」を象徴する大切な機関であり、駅と駅周辺が一体となった鉄道を活かしたまちづくり、そして来訪者への資料館への誘導を図っていくことが、資料館そして駅周辺の双方の発展・活性化には必要不可欠です。

そこで、新津駅中サテライトを、新津駅を起点とした新津鉄道資料館へ来訪者を誘導するための導入拠点として整備するとともに、「鉄道のまち新津」のアピールを進めていくこととします。

2. 取り組みの内容

総合案内所機能としての役割を持たせる

- 交通アクセスや交通機関の情報提供、レンタサイクルの貸し出し。
- 地域の観光や施設、JR等と連携したイベント情報の提供。

イントロダクション展示を実施する

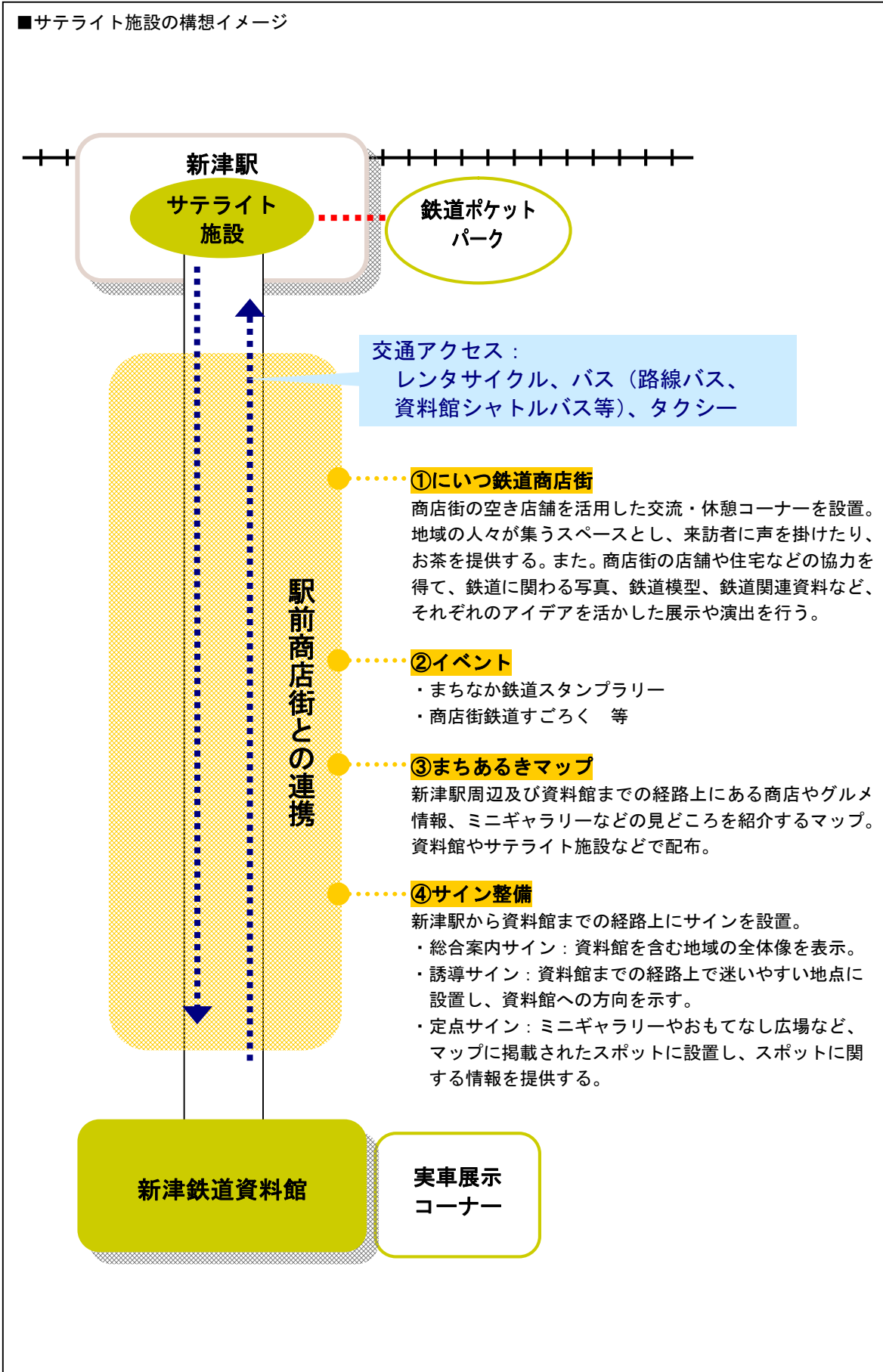
- 常設展示のダイジェスト展示。
- 企画展示のダイジェスト展示。

シティガイドの拠点づくりを行う

- シティガイドが活動するための拠点として活用。

ポケットパークを設置する

- 新津駅前における鉄道実物資料の展示。
- 来訪者のための休憩ゾーンの設置。
- 看板による秋葉区や鉄道資料館の紹介と誘導。



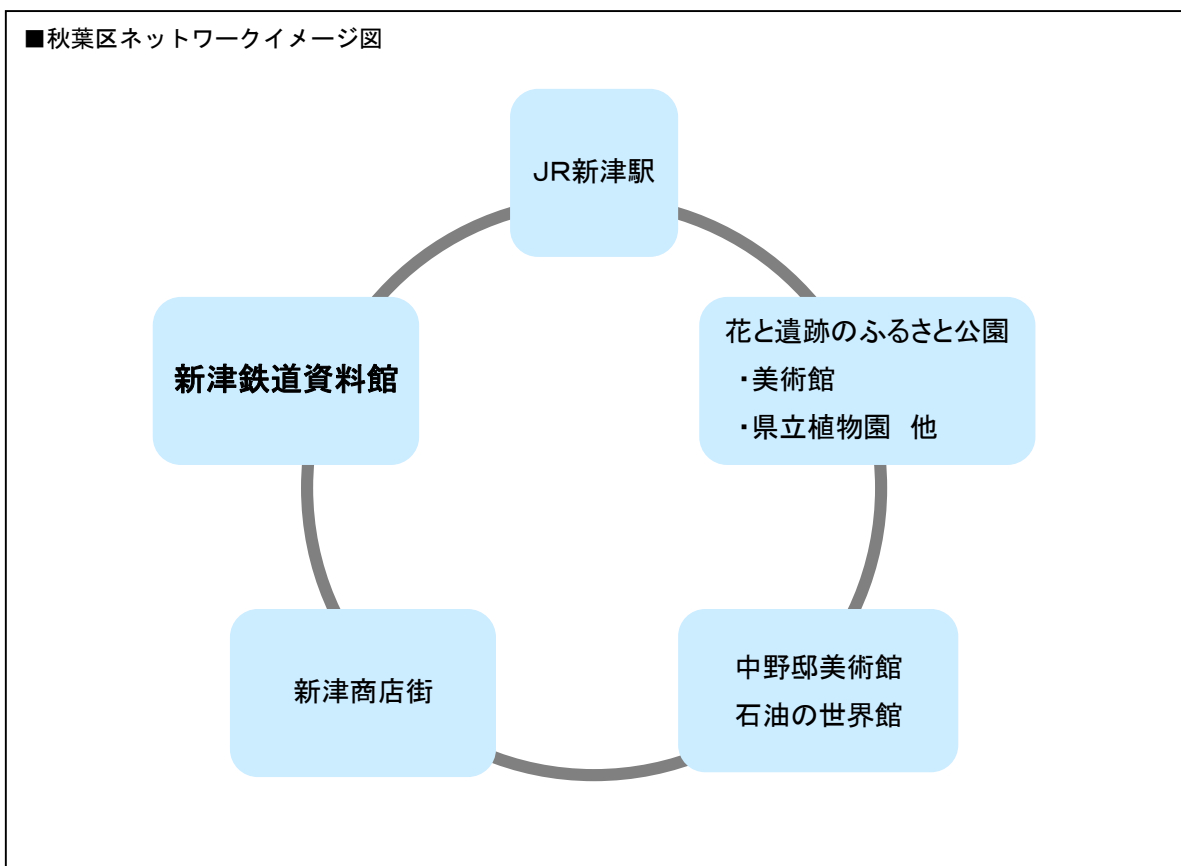
第7章 他館とのネットワーク

1. 基本的な考え方

秋葉区には鉄道資料館のほかに、石油の世界館、中野邸美術館、さらには、新津美術館、県立植物園、県埋蔵文化財センター、最近では、史跡古津八幡山弥生の丘展示館などがある花と遺跡のふるさと公園があり、中央区（市美術館、會津八一記念館、市水族館マリンピア日本海、りゅーとぴあ市民芸術文化会館、市歴史博物館みなとぴあ、砂丘館、安吾風の館、県立万代島美術館など）に次ぐ文化施設の集中ゾーンとなっています。

中央区は、バス路線やタクシーなどの交通網があり、域外からのJR利用者は、比較的アクセスしやすい環境にあります。一方、秋葉区内の文化施設を利用する人たち（域外からのJR利用者）にとっては、公共交通がほとんどないのが現状であり、このアクセスの不便さは、自家用車以外では域外からの利用者にとっては大きな障害となっています。

それを解消するために、新津駅から鉄道資料館や各文化施設を巡回するシャトルバスなど、例えば多くの利用者が見込まれる春から秋季の土・日・祝日に（1時間間隔で）運行するなど、対策を講じることが考えられます。



第8章 さらなる発信力の強化

1. 基本的な考え方

これまで、資料館のイメージは地味なものでしたが、リニューアル・オープンすることを機会に、市外はもとより県外や首都圏の人たちにも「行ってみたい」「何か面白そう」だというイメージを発信していきます。

市内外から新津を訪れる方々が増えれば、地元の活性化にもつながるため、そのために、様々な取り組みの展開を図っていくものです。

2. 取り組みの内容

リニューアル・オープンに先立つ広報活動の展開

- リニューアル・オープン以前から、チラシやポスター、ホームページなどを通じた広報活動。
- JRとのタイアップ、大宮鉄道博物館や大阪交通科学博物館、京都梅小路蒸気機関車館との連携。

JRのデスティネーションキャンペーンとの連携

- JRのデスティネーションキャンペーンの関連事業としての資料館のリニューアル・オープン事業の位置づけと、JRのキャンペーン戦略への組み入れ。

来館者をはっとさせるイベントプロモーションの展開

- 来館者が第一印象として「はっと」する、「あっと」思うような仕掛け（例えば、建物の外壁のペイントデザインなど）づくり。

■外壁と用いたイベントプロモーション展開イメージ



資料館側壁面を利用
※実物車両展示とのバランスを考慮する
必要あり



資料館正面壁面を利用



公民館の壁面を利用し、遠くからの視認
性向上を図る

第9章 資料館リニューアルで想定されるスケジュール

資料館リニューアルについては、本市として、活性化基本計画の策定、及び展示と建築に関する基本設計・実施設計の策定を経て、必要な工事・展示業務を行う必要があります。

同時に、資料館の展示の核ともなる新たな資料・情報の収集も並行して作業を進めていく必要があります。

これらをふまえ、資料館のリニューアル・オープンのスケジュールを次の通り設定しました。

平成24年度	活性化基本計画の策定
平成25年度	リニューアル基本設計・実施設計の策定（平成25年度前期） 展示リニューアル業務（平成25年度中期～。館内施設リニューアル工事を含む）。 ※期間中、鉄道資料館は閉館とする。
平成26年度	鉄道資料館リニューアル・オープン（平成26年度前期から）

■ 想定される行程

作業内容	24年度	25年度			26年度	
	後期	前期	中期	後期	前期	中期
基本計画 策定	→					
リニューアル 基本設計 実施設計		→				
リニューアル 展示業務			資料館閉館	→		
リニューアル オープン					★【一部供用】 ディステーション キャンペーン 関連事業	→【全館供用】 オープニング 事業

■資料 活性化検討委員会組織体制

検討委員	法政大学キャリアデザイン学部 教授	金山 喜昭
	元交通博物館（さいたま市大宮区）学芸員	佐藤美知男
	南山大学講師	里見 親幸
	にいがた観光カリスマ	南雲 友美
事務局	新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課	
	新潟市文化観光・スポーツ部文化政策課	
協力	交通科学博物館（大阪市港区）	
	新潟市秋葉区役所	